

アンケート結果

第3次半田市地域福祉計画策定
市民アンケート調査

報 告 書

令和7年3月
半田市

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的

第3次半田市地域福祉計画の策定にあたり、市民意識を調査して基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査対象

18歳以上の市民2,000人を対象に無作為に抽出した。

3 調査期間

令和6年12月5日に発送し、令和7年1月10日を投函締切とした。

4 調査方法

郵送配布、郵送回収、オンライン回収

5 回収状況

	市民アンケート調査	配付数	有効回収数	有効回収率
※うち外国籍7票	2,000票	(紙 : 408票 オンライン : 223票)	631票	31.5%

6 調査結果の表示方法

I 調査の概要	1 調査の目的	2 調査対象	3 調査期間	4 調査方法	5 回収状況	6 調査結果の表示方法
II 市民アンケート調査結果	1 回答者自身について	2 日常生活について	3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について	4 災害時における助け合いについて	5 地域の課題について	6 半田市地域福祉計画について
	1	2	6	18	40	43
						47

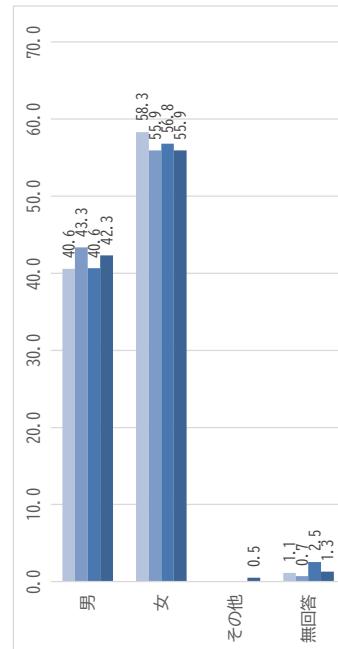
参考資料（アンケート調査票）

- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を除いていため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目を組み合わせて分類した集計のこととで、複数の質問項目を交差して並べ、表などを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法のこと。

II 市民アンケート調査結果

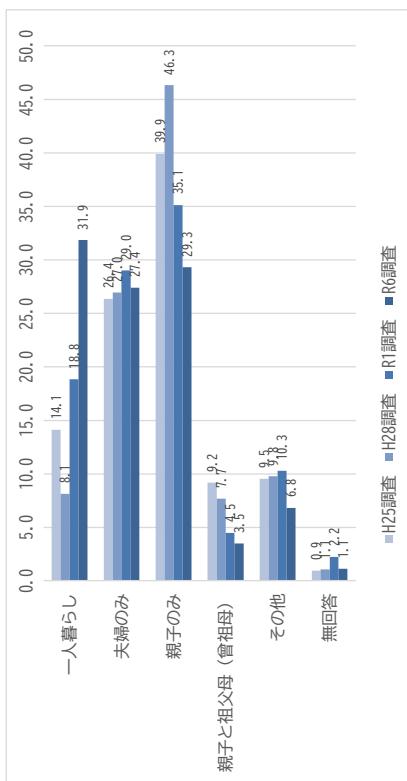
1 回答者自身について

(問1) 性別

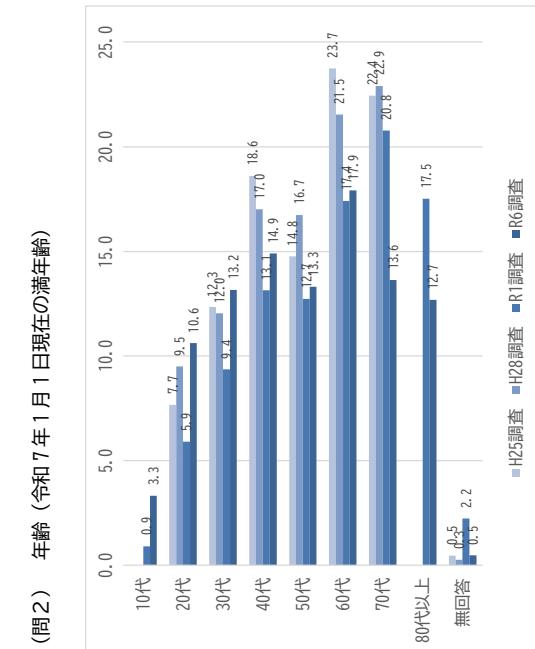


(問3)

(問3) 家族構成



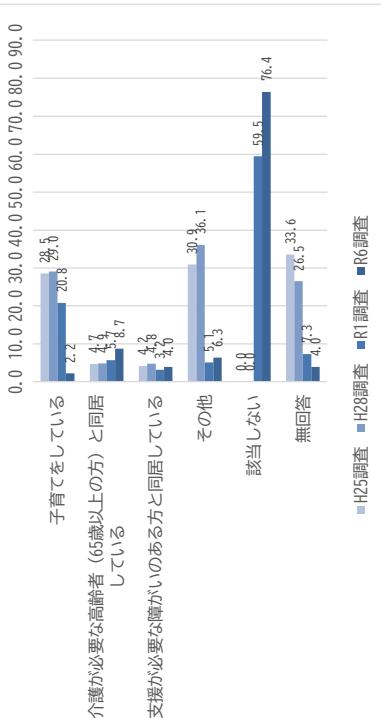
〔問3〕—1 「一人暮らし」で緊急時に連絡が取れる親族はいるか
N=201



H25調査及びH28調査では「80代以上」の選択肢を設げずに「70代以上」としていたため、年齢構成比の詳細は不明だが、70代と80代以上の合計は、R1調査で38.3%、R6調査で26.3%であり、H25調査及びH28調査を上回っている。

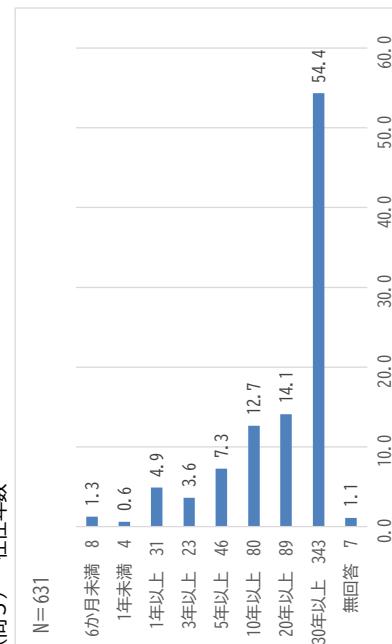
また、今までの調査の中で最も10代、20代、30代の年齢構成が高いのは、今回の調査から紙とオンラインによる回答方法を併用したことなどが考えられる。

(問4) 世帯の状況



「子育てをしている」と回答した方が2.2%となっており、R1調査と比較して9.5倍減少している。また、「介護が必要な高齢者（65歳以上の方）と同居している」と回答した方が8.7%であり、H25調査から余々に増加している。

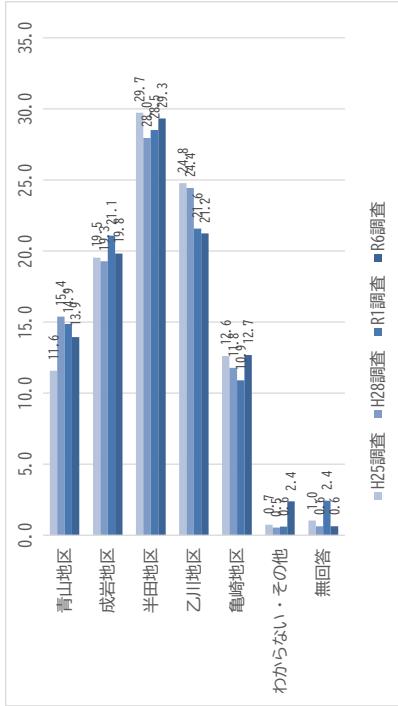
(問5) 在住年数



今回の調査で初めて設けた設問項目である。

回答者の属性は半数以上（54.4%）が30年以上と回答している。また、回答者の割合は、在住年数が徐々に増加する傾向となっている。

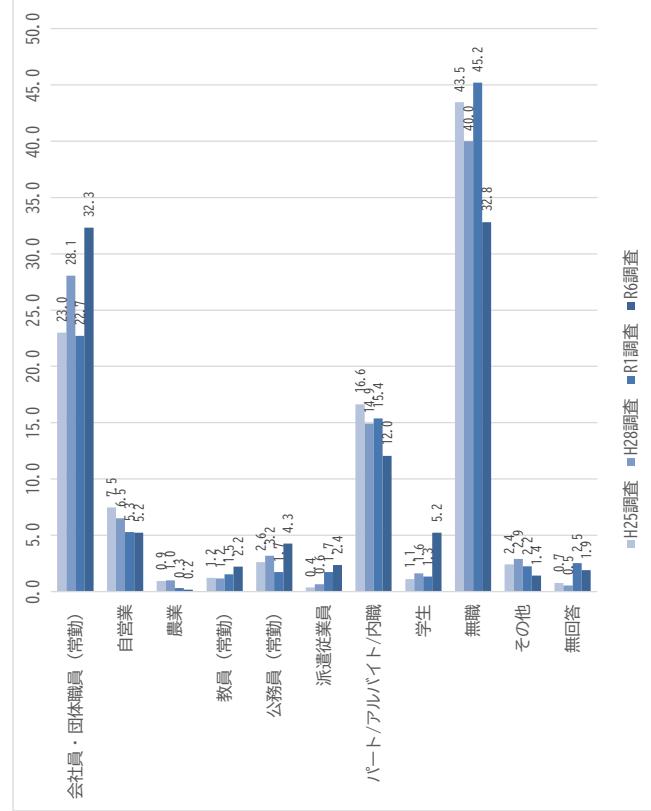
(問6) 居住地区（中学校区）



■H25調査 ■H28調査 ■R1調査 ■R6調査

回答者の居住地区は半田地区、乙川地区、成岩地区、青山地区、龜崎地区の順になっている。
また、今回の調査では、「わからぬ・その他」と回答した層が例年の約4倍となっている。

(問7) 職業

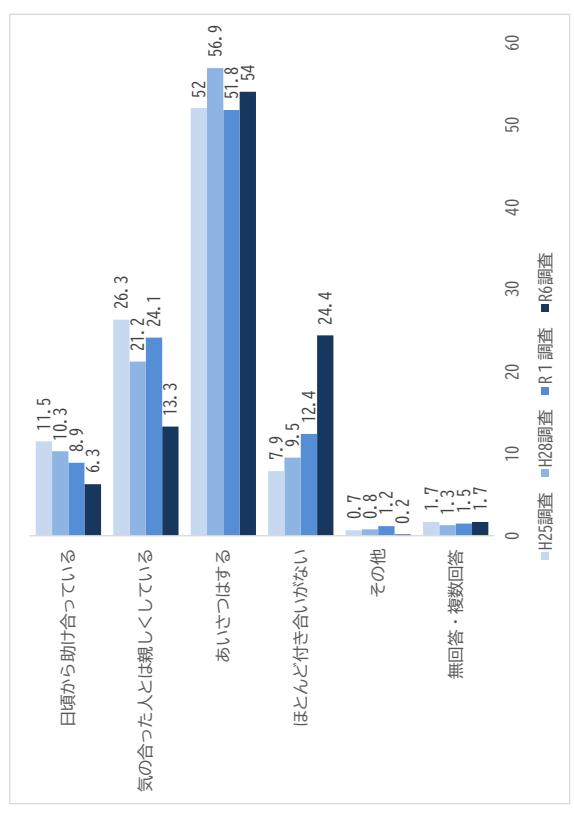


■H25調査 ■H28調査 ■R1調査 ■R6調査

「無職」と回答した方が最も多く、次いで「会社員・団体職員（常勤）」、「パート/アルバイト/内職」など正在している。また、学生の構成比が5.2%で、R1調査から4倍などしている。他にも、派遣従業員が年々増加している。

2 日常生活について

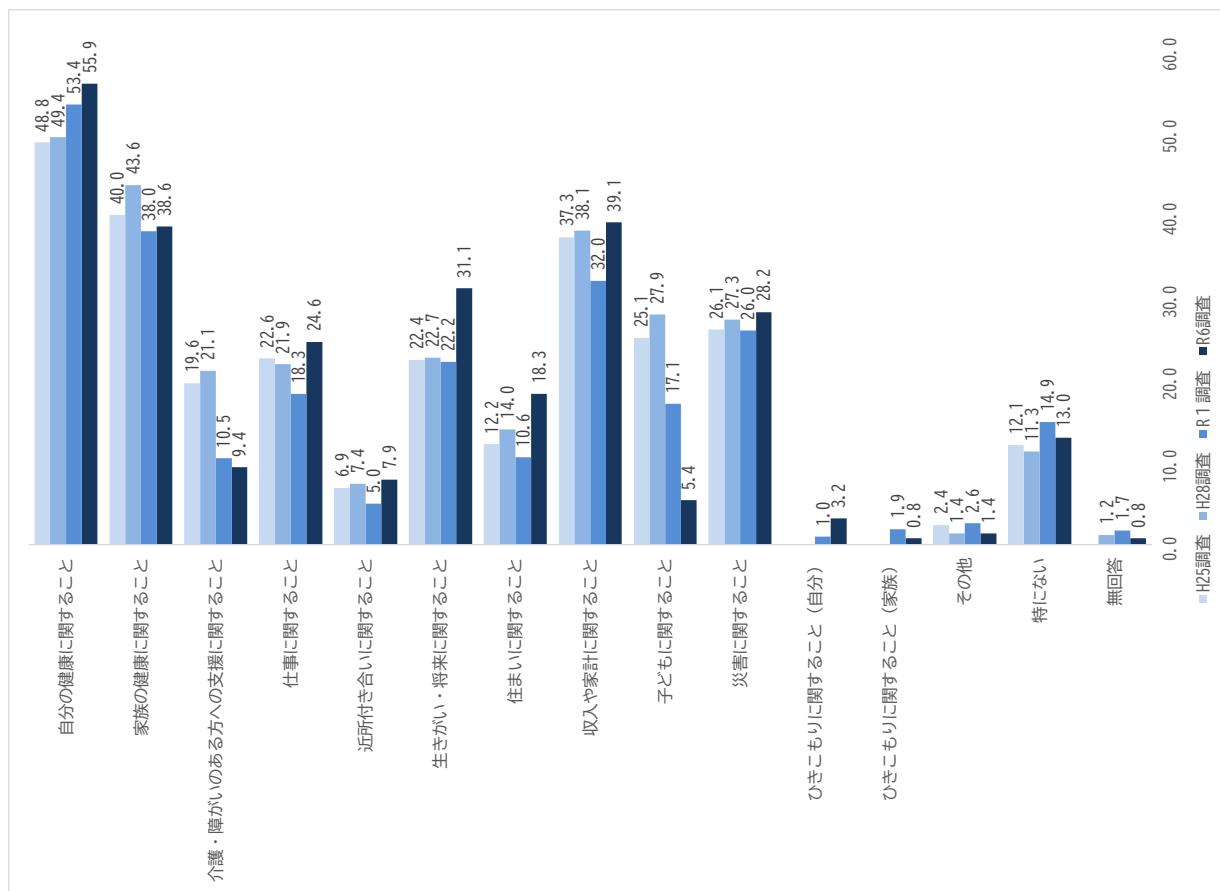
問8 近隣の人とは、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○) 単位:%



年齢別

	有効回答数(件)	10代～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
		いる	いる	いる	いる	いる	いる	いる
		親	親	親	親	親	親	親
親しきつた人とは		2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
どちらとも		58.0	57.8	57.8	57.8	57.8	57.8	57.8
どちらともない		35.2	36.1	37.2	37.2	37.2	37.2	37.2
どちらともない		0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
複数回答		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問9 あなたは、日常生活の中で、どのような悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるすべての番号に○)



「ほとんど付き合いがない」は、24.4%であり、R1調査時の12.4%から約2倍、H25調査時の7.9%から3.1倍に増加している。

「日頃から助け合っている」「気の合った人は親しくしている」は、合計で19.6%となっており、H25調査の37.8%から1.9倍減少している。

年齢別では、10代～20代、30代、40代は「ほとんど付き合いがない」の割合が30%以上となっている。

問10 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるすべての番号に○) 単位:%

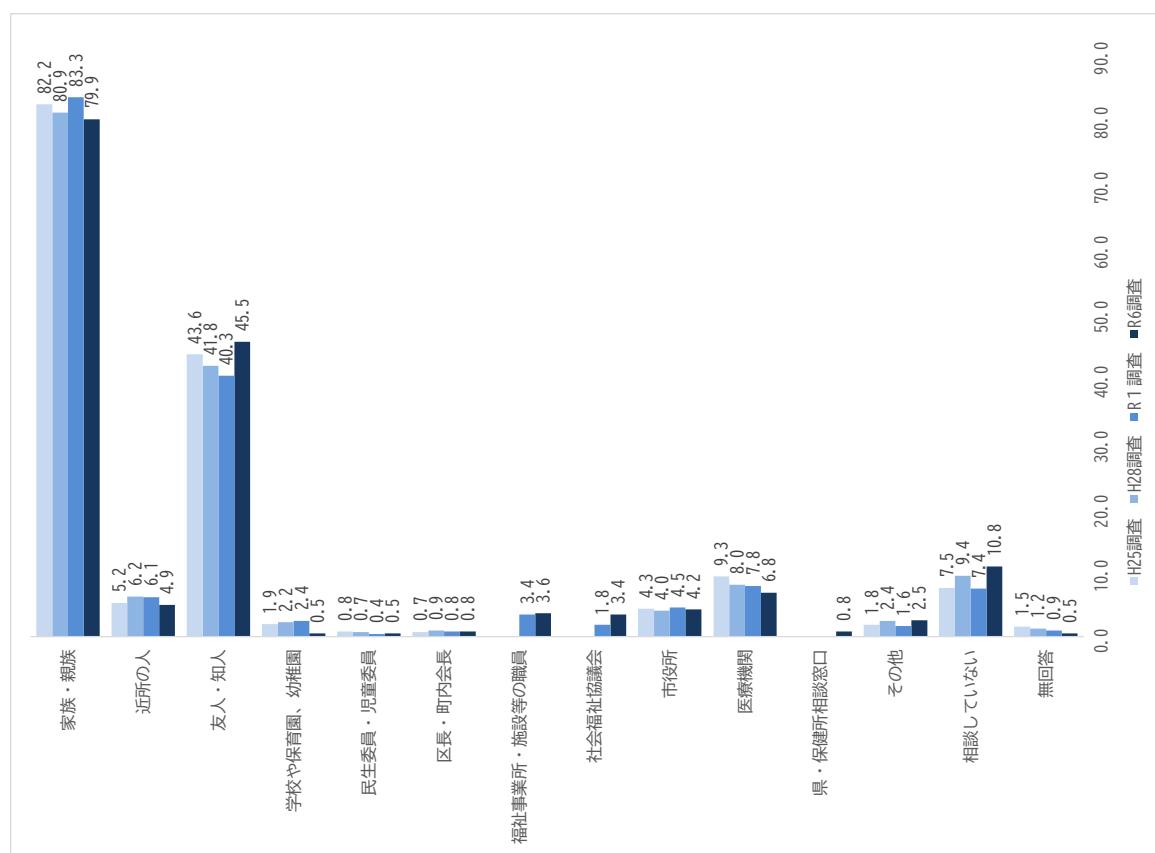
	有効回答数(件)	自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	介護に関すること	仕事に関すること	近所づきあいに関すること	住まいに関すること	生きてがい・将来に関すること	災害に関すること	子供に関すること	収入や家計に関すること	住まいに関すること	ひきこもりに関すること(自分)	ひきこもりに関すること(家族)	ひきこもりに関すること(友人)	その他の	特にない	無回答
10代~20代	88	30.7	27.3	8.0	28.4	5.7	45.5	14.8	44.3	4.5	29.5	1.1	0.0	0.0	20.5	0.0	0.0	0.0
30代	83	51.8	36.1	3.6	45.8	3.6	43.4	24.1	50.6	3.6	34.9	3.6	2.4	1.2	14.5	0.0	0.8	0.5
40代	94	53.2	48.9	11.7	38.3	11.7	36.2	17.0	45.7	6.4	30.9	8.5	0.0	2.1	6.4	1.1	0.4	0.5
50代	84	57.1	53.6	20.2	39.3	7.1	25.0	22.6	45.2	8.3	36.9	1.2	1.2	2.4	9.5	0.0	0.7	0.5
60代	113	58.4	40.7	5.3	12.4	4.4	30.1	12.4	32.7	4.4	23.0	0.9	0.9	1.8	14.2	0.9	0.9	0.8
70代	86	69.8	34.9	5.8	8.1	9.3	19.8	23.3	34.9	5.8	19.8	3.5	0.0	1.2	15.1	0.0	0.8	0.8
80代以上	80	70.0	28.8	11.3	0.0	13.8	17.5	13.8	20.0	5.0	22.5	3.8	1.3	1.3	11.3	3.8	3.6	3.4

R1調査と比べて、「仕事に関するこ」は 18.3%から 24.6%と増加している。また、「住まいに関するこ」とも 10.6%から 18.3%と増加している。

「自分の健康に関するこ」は、55.9%とアンケート調査の度に増加している。

「介護・障がいのある方への支援に関するこ」は、H28調査の 21.1%から 9.4%と半減している。

「子どもに関するこ」は、H25調査では 25.1%、H28調査では 27.9%となっているが、R6調査では 5.4%と減少している。

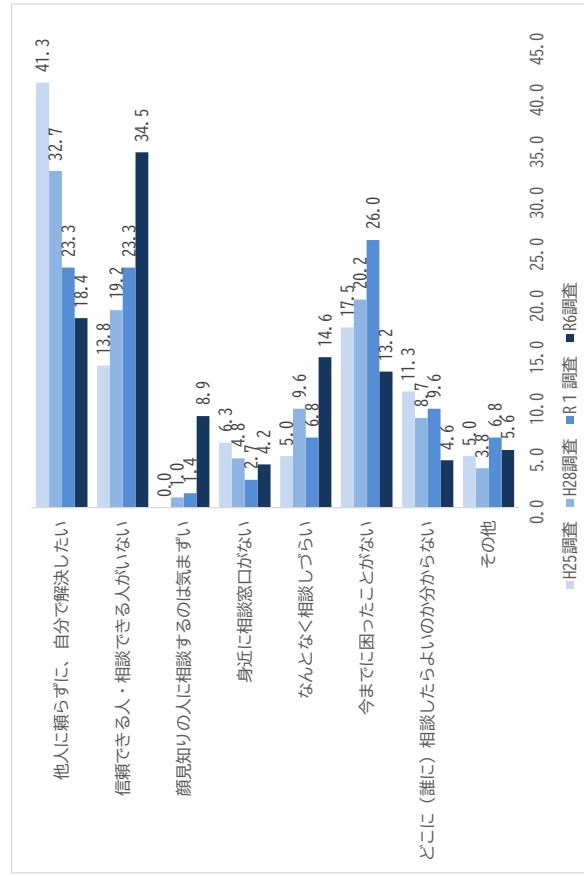


「福祉事業所」、「社会福祉協議会」は、R1調査より増加しており、相談窓口の認識に対して変化がみられる。「家族・親族」や「近所の人」は微減となっており、「友人・知人」はR1調査の40.3%から、R6調査の45.5%と増加している。

問10で「相談していない」と答えた方にお聞きします。

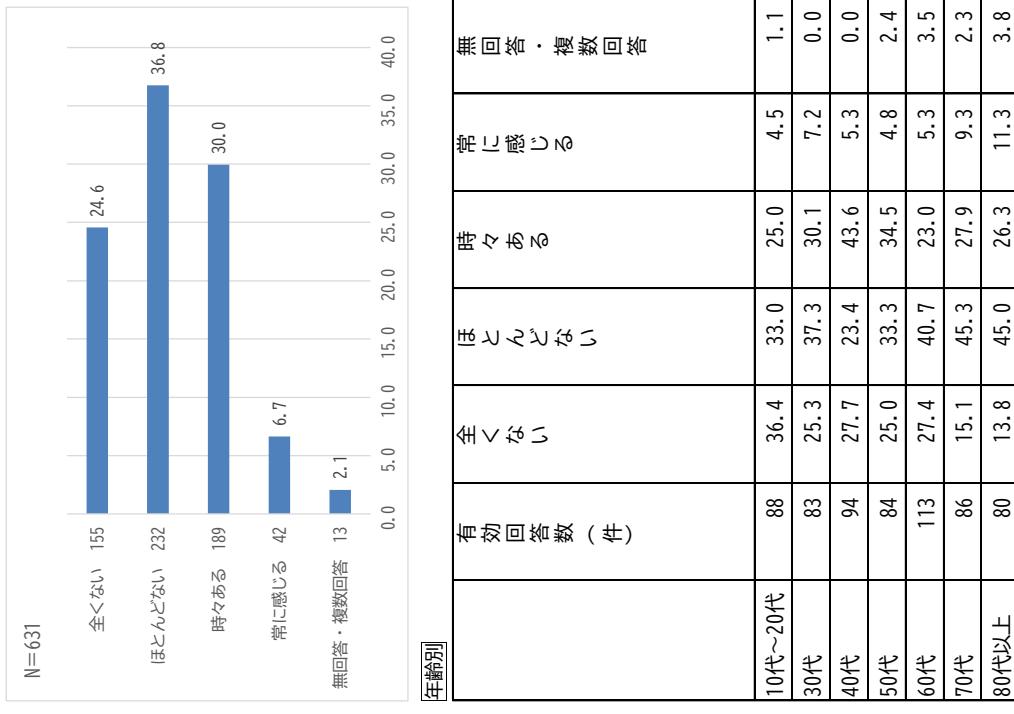
問10-1 なせ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

単位: %



問11 自分が孤独であると感じることがありますか。(1つの番号に○)

単位: %

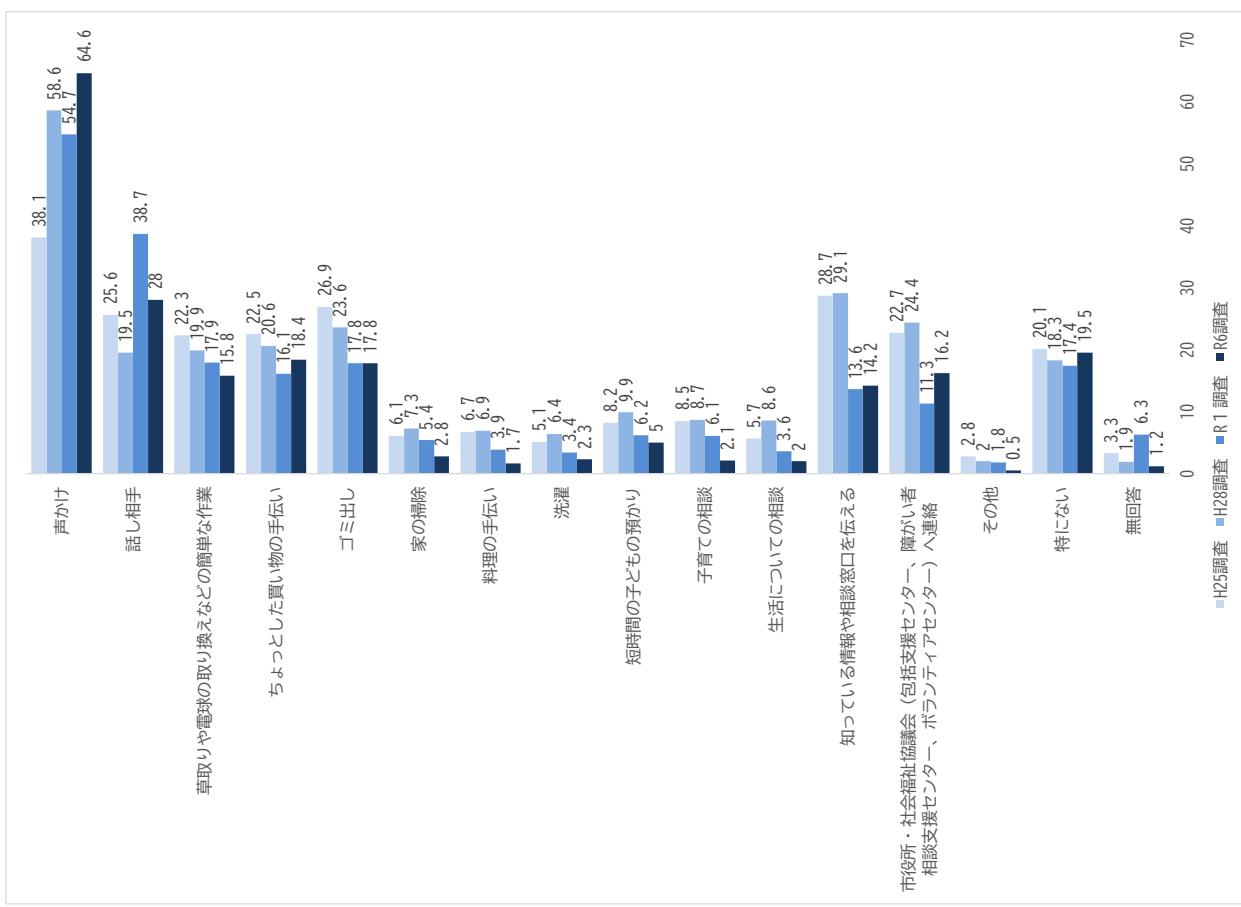


R6調査では「信頼できる人・相談できる人がいない」が34.5%、「なんどなく相談しつらい」が14.6%となっており、過去の調査と比較して増加している。

「ほとんどない」が36.8%と最も多く、次いで「時々ある」が30.0%となっている。

年齢別では、40代は「時々ある」「常に感じる」が48.9%、50代は39.3%となつておらず、他の年代より多い。

問 12 住所の人のちよつとした困りごと支援や助け合い活動として、あなたができるることは何ですか。
単位・%



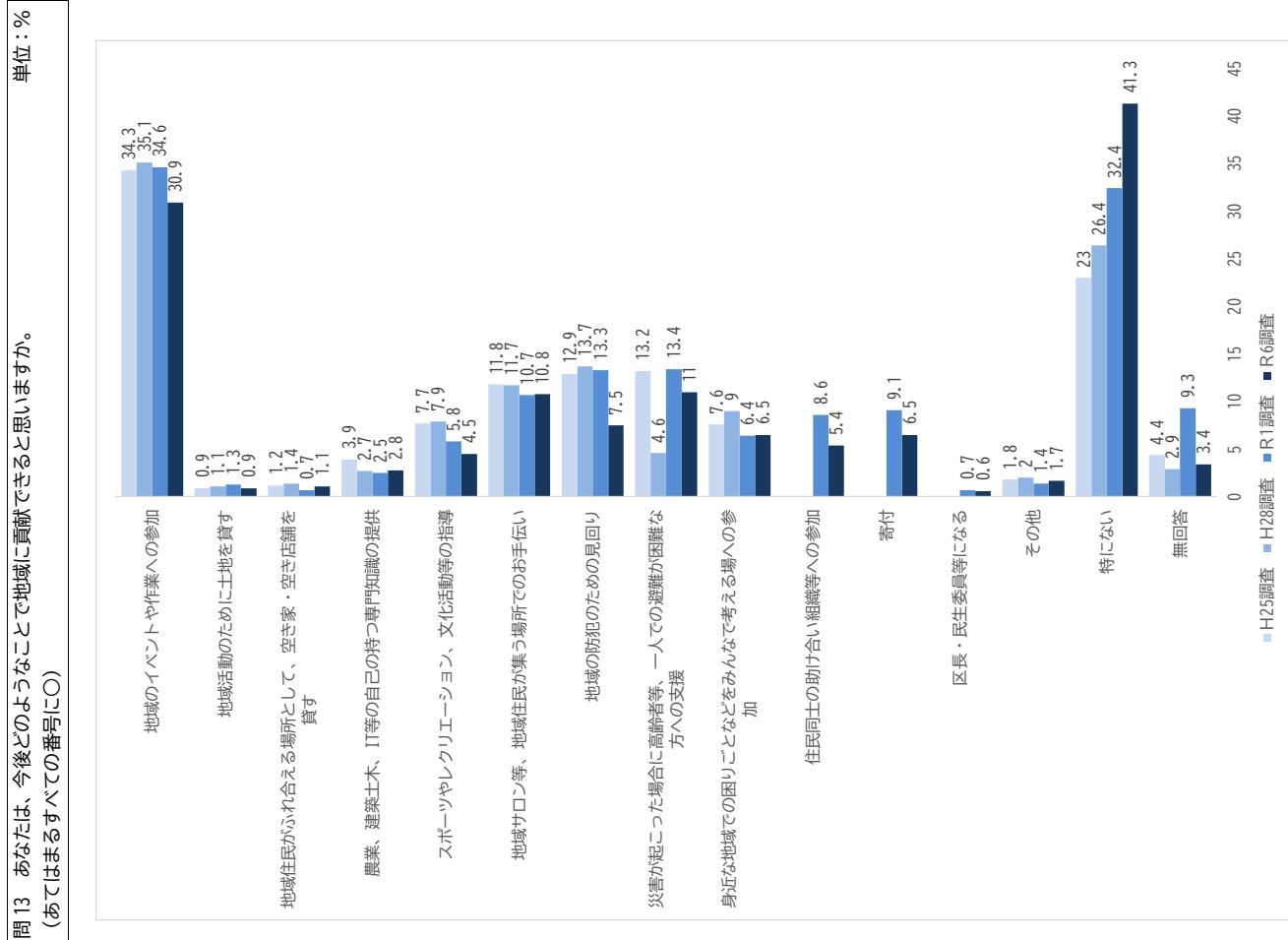
年齢別

	有効回答数（件）	声かけ	話し相手	草取りや電球の取り換えるなどの簡単な作業	ちよつとした買い物の手伝い	ゴミ出し	家の掃除	料理の手伝い	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	口をつけて伝えている情報や相談窓口を伝える	市役所・社会協議会へ連絡	その他の特にならない	無回答
10代～20代	29	58.6	24.1	13.8	10.3	6.9	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	13.8	17.2	0.0	31.0
30代	31	35.5	29.0	6.5	16.1	16.1	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5	16.1	0.0	25.8
40代	22	59.1	18.2	22.7	18.2	4.5	4.5	4.5	4.5	13.6	0.0	4.5	22.7	22.7	0.0	27.3
50代	28	75.0	28.6	14.3	25.0	17.9	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	10.7	7.1	3.6	14.3
60代	46	80.4	34.8	26.1	28.3	6.5	2.2	6.5	8.7	5.1	2.6	5.1	19.6	15.2	0.0	10.9
70代	39	76.9	33.3	17.9	23.1	2.6	2.6	5.1	2.6	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4	0.0	10.3
80代以上	36	66.7	27.8	13.9	5.6	13.9	2.8	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	11.1	19.4	0.0	16.7

居住地区別

	有効回答数（件）	声かけ	話し相手	草取りや電球の取り換えるなどの簡単な作業	ちよつとした買い物の手伝い	ゴミ出し	家の掃除	料理の手伝い	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	口をつけて伝えている情報や相談窓口を伝える	市役所・社会協議会へ連絡	その他の特にならない	無回答	
亀崎地区	80	63.8	41.3	26.3	25.0	18.8	5.0	3.8	7.5	3.8	0.0	1.3	18.8	13.8	0.0	17.5	
乙川地区	134	61.9	25.4	14.2	14.9	14.9	2.2	0.7	4.5	3.0	2.2	13.4	13.4	0.7	28.4	1.5	
半田地区	184	59.8	31.5	17.4	18.5	16.8	3.3	2.2	2.7	4.9	1.6	2.7	16.3	14.1	2.2	19.6	1.6
成岩地区	125	69.6	40.8	16.0	17.6	24.0	8.8	5.6	4.8	5.6	3.2	3.2	18.4	16.0	0.8	12.8	0.8
青山地区	88	61.4	23.9	21.6	12.5	14.8	6.8	3.4	2.3	1.1	1.1	1.1	12.5	14.3	0.0	19.3	0.0

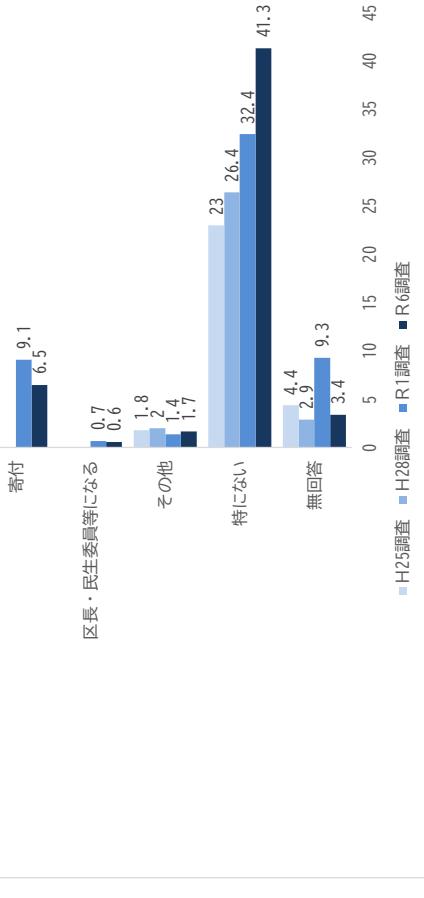
「声かけ」や「話し相手」、「知らない情報や相談窓口を伝える」など、コミュニケーションでできることは増加している。一方で、「家の掃除」や「料理の手伝い」などの活動を伴うできることは減少している。地区別でみると、「亀崎地区」や「成岩地区」では「話し相手」や「成岩地区」では「ゴミ出し」「ちよつとした買い物の手伝い」などの割合が高い。



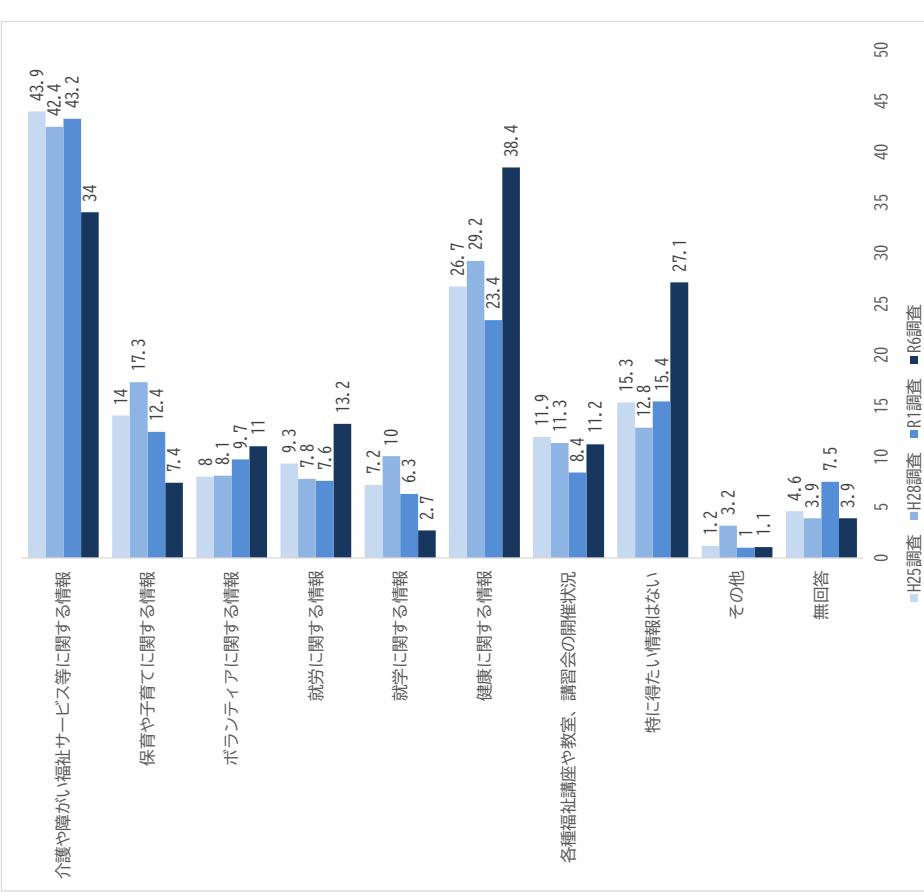
年齢別	有効回答数(件)	地域を貸す	地域活動のための土地を貸す	農業、建築土木、IT等の自己の持つ専門知識の提供	スポーツやレクリエーション、文化活動等の指導
10代-20代	88	44.3	1.1	1.1	0.9
30代	83	25.3	0.0	1.2	0.7
40代	94	29.8	4.3	4.3	1.1
50代	84	36.9	1.2	0.0	2.4
60代	113	32.7	0.0	0.9	2.7
70代	86	24.4	0.0	0.0	3.5
80代以上	80	22.5	0.0	0.0	7.0

居住地区別	有効回答数(件)	地域を貸す	地域活動のための土地を貸す	農業、建築土木、IT等の自己の持つ専門知識の提供	スポーツやレクリエーション、文化活動等の指導
10代-20代	88	44.3	1.1	1.1	0.9
30代	83	25.3	0.0	1.2	0.7
40代	94	29.8	4.3	4.3	1.1
50代	84	36.9	1.2	0.0	2.4
60代	113	32.7	0.0	0.9	2.7
70代	86	24.4	0.0	0.0	3.5
80代以上	80	22.5	0.0	0.0	7.0

「特にない」は41.3%となっており、R1調査の32.4%より増加している。
年齢別では、「特にない」の中でも「30代」「70代」「80代以上」となっている。



問14 あなたは福祉に関するどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○) 単位:%



年齢別

年齢別	有効回答数(件)	特に得たい情報はない	健康新聞する情報	就労に関する情報	ボランティアに関する情報	保育や子育てに関する情報	介護や障害サービスに関する情報	就労に関する情報	ボランティアに関する情報	健康新聞する情報	就労に関する情報	ボランティアに関する情報	保育や子育てに関する情報	介護や障害サービスに関する情報
10代～20代	88	18.2	23.9	11.4	22.7	9.1	33.0	4.5	37.5	0.0	0.0			
30代	83	7.2	18.1	10.8	16.9	1.2	39.8	7.2	33.7	0.0	1.2			
40代	94	40.4	4.3	10.6	19.1	5.3	40.4	13.8	27.7	3.2	3.2			
50代	84	54.8	2.4	9.5	15.5	2.4	35.7	17.9	23.8	0.0	1.2			
60代	113	38.9	1.8	14.2	11.5	0.9	41.6	12.4	22.1	0.9	0.9			
70代	86	40.7	1.2	14.0	7.0	0.0	43.0	14.0	22.1	0.0	3.5			
80代以上	80	37.5	0.0	6.3	0.0	0.0	35.0	8.8	22.5	3.8	17.5			

「健康に関する情報」がR1調査では2番目に多い23.4%であったが、今回の調査では最も多い38.4%になっている。

また、R1調査で最も多かった「介護や障がい福祉サービスに関する情報」43.2%は、R6調査では34%で2番目に多い項目となっている。

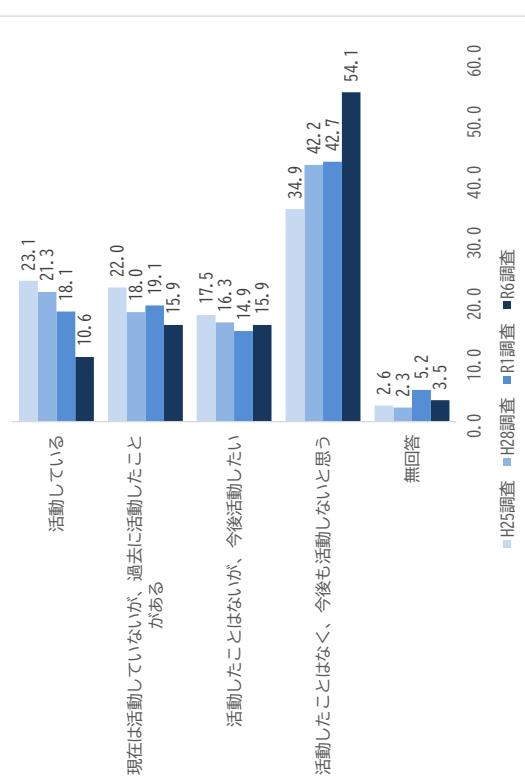
3番目に多いのは「特に得たい情報がない」になっており、R1調査の15.4%から27.1%と増加している。

「年齢別」では「介護や障がいサービスに関する情報」は40代以降で40%前後と高い数字になっているが、30代では7.2%、10～20代では18.2%と低くなっている。

3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について

居住地区別

問15 あなたは、自治区やコミュニティなどで地域の活動をしていますか。(1つの番号に○) 単位:%



年齢別

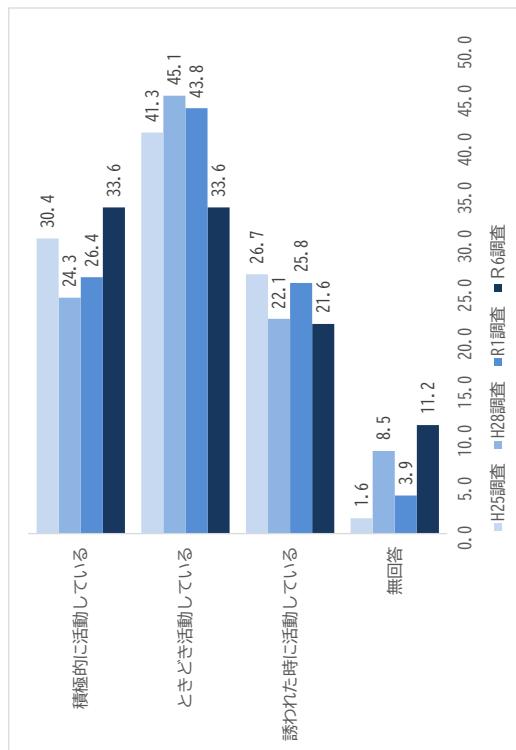
年齢	有効回答数(件)	活動している	過去には活動してこないが、ある	活動したいことはないが、今	も活動しないことがなく、今後	無回答
10代～20代	87	3.4	17.2	62.1	0.0	
30代	83	2.4	4.8	15.7	75.9	1.2
40代	94	10.6	8.5	22.3	54.3	4.3
50代	84	15.5	15.5	19.0	50.0	0.0
60代	113	12.4	25.7	19.5	39.8	2.7
70代	86	18.6	18.6	14.0	46.5	2.3
80代以上	80	11.3	21.3	3.8	50.0	13.8

時間帯別	有効回答数(件)	活動している			過去には活動してこないが、ある			活動したいことはないが、今			も活動しないことがなく、今後			無回答
		活動している	過去には活動してこないが、ある	活動したいことはないが、今	活動している	過去には活動してこないが、ある	活動したいことはないが、今	活動している	過去には活動してこないが、ある	活動したいことはないが、今	活動している	過去には活動してこないが、ある	活動したいことはないが、今	
平日の午前	65	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
平日の午後	47	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
平日の夜間	22	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
土曜日の午前	73	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
土曜日の午後	84	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
土曜日の夜間	39	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6								
日曜・祝日の午前	76	9.2	10.5	15.8	39.5	1.3								
日曜・祝日の午後	72	11.1	12.5	30.6	45.8	0.0								
日曜・祝日の夜間	21	14.3	4.8	42.9	38.1	0.0								
時間は特に関係ない	111	15.3	16.2	12.6	55.9	0.0								
活動する時間はない	198	4.0	19.7	7.6	67.7	1.0								
無回答	57	8.8	15.8	5.3	50.9	19.3								

「活動している」はH25調査の23.1%から徐々に低下してR6調査では10.6%となっている。一方で、「活動したことではなく、今後も活動しないと思う」はH25調査の34.9%から徐々に増加し、R6調査では54.1%と増加している。

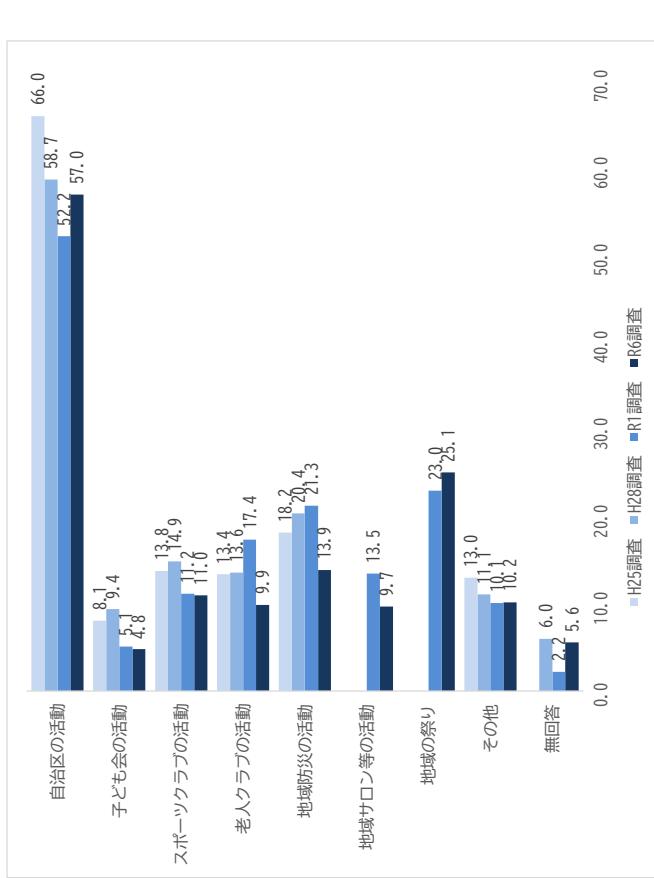
「年齢別」では、「活動している」が最も多いのは「70代」の18.6%であり、「活動したことではないが、今後活動したい」については、「40代」が22.3%と最も多く、「時間帯」としては「日曜・祝日の夜間」が42.9%、「土曜日の夜間」が38.5%と高い数字となっている。

問15-1～3は、問15で「活動している」と答えた方にお聞きします。
問15-1 どの程度活動をしていますか。(1つの番号に○)
単位:%



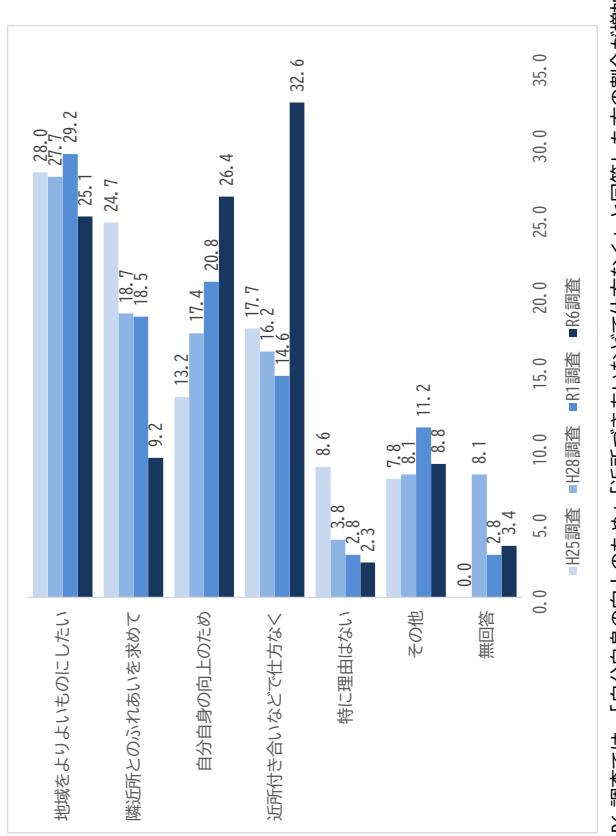
R1調査で最も多かった「ときどき活動している」43.8%が、R6調査では33.6%と低下しており、R1調査で2番目に多かった「積極的に活動している」26.4%から増加し、同じ数値となっている。

問15-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべての番号に○) 単位:%



「自治区の活動」が最も多く57.0%になっている。
「子ども会の活動」「スポーツクラブの活動」「老人クラブの活動」「地域防災の活動」「地域サロン等の活動」
はこれまでの調査結果では一番少なくなっている。「地域の祭り」は2.1%と微増であった。

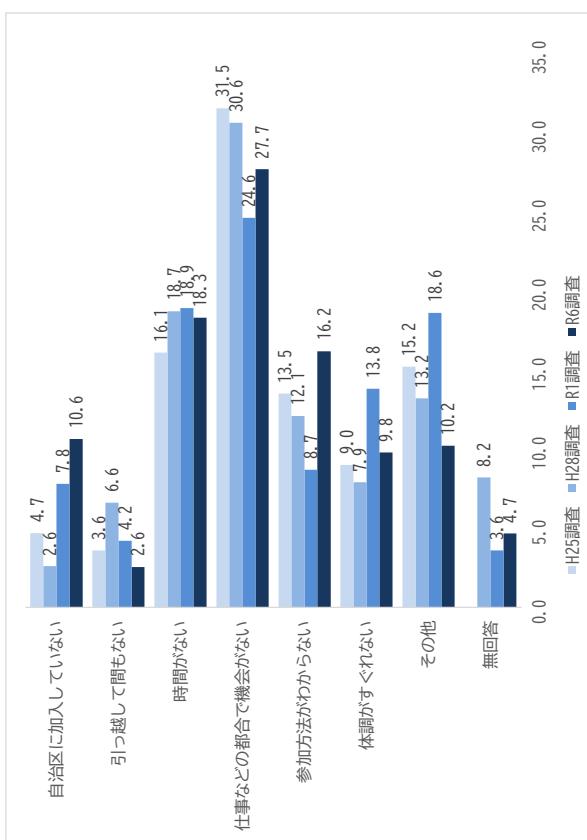
問15-3 どのような目的で活動していますか。(1つの番号に○) 単位:%



R6調査では、「自分自身の向上のため」「近所づきあいなどで仕方なく」と回答した方が割合が増加している。
一方、「地域をよりよいものにしたい」「隣近所とのふれあいを求めて」と回答した方はこれまでの調査の中で
最も低い割合となっている。

問15で「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」「活動したことがないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きします。

問15-4 現在活動していない主な理由は何ですか。(1つの番号に○) 単位:%



年齢別

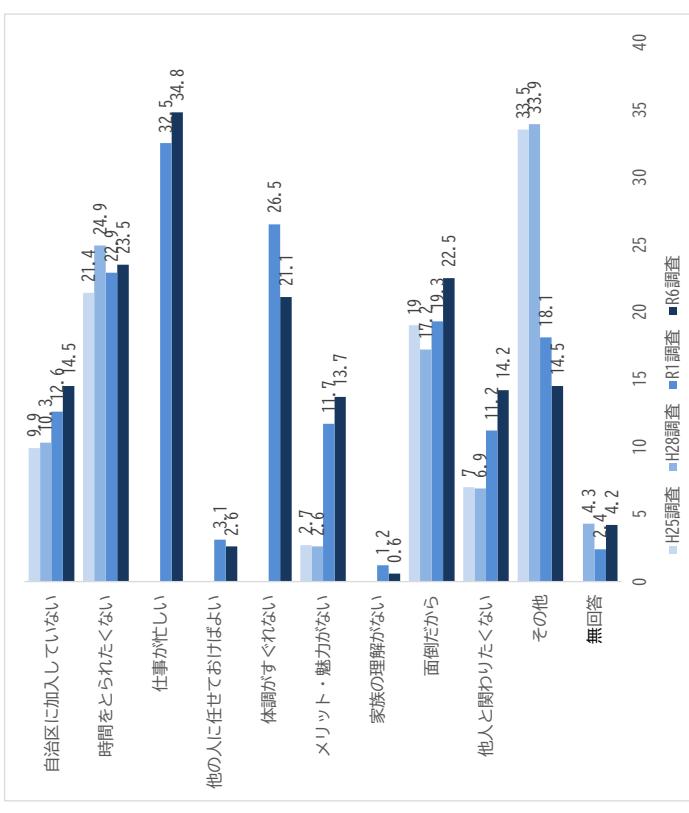
	有効回答数(件)	自治区に入りしていない	引っ越しで間もない	時間がない	い仕事などの都合で機会がない	参加方法が分からぬい	体調がすぐれない	その他の	無回答
10代~20代	84	3.6	3.6	16.7	0.0	2.4	0.0	0.0	64.3
30代	80	7.5	1.3	5.0	1.3	5.0	1.3	0.0	78.8
40代	80	6.3	1.3	8.8	1.3	11.3	1.3	3.8	62.5
50代	71	2.8	0.0	19.7	0.0	8.5	0.0	4.2	59.2
60代	96	4.2	1.0	21.9	8.3	6.3	8.3	51.0	0.0
70代	69	4.3	0.0	10.1	7.2	5.8	7.2	8.7	63.8
80代以上	60	3.3	0.0	3.3	13.3	1.7	13.3	6.7	71.7

居住地区別

	有効回答数(件)	自治区に入りしていない	引っ越しで間もない	時間がない	い仕事などの都合で機会がない	参加方法が分からぬい	体調がすぐれない	その他の	無回答
電崎地区	80	0.0	0.0	11.3	8.8	7.5	6.3	3.8	68.8
乙川地区	134	3.7	0.0	6.0	11.2	3.7	1.5	3.7	71.6
半田地区	185	4.3	1.1	3.8	10.3	5.4	5.4	4.9	68.6
成岩地区	125	4.8	1.6	12.0	7.2	8.8	3.2	3.2	64.0
青山地区	88	4.5	0.0	3.4	12.5	4.5	2.3	2.3	73.9

「年齢別」にみると、「30代」では「自治区に加入していない」と回答された方の割合が他の年代より高く、「40代」では「参加方法が分からぬい」と回答された方の割合が高い。
「居住地区別」にみると、電崎地区、成岩地区では「時間がない」の割合が最も高く、乙川地区、半田地区、青山地区では「仕事などの都合で機会がない」の割合が最も高い。

問15-5 今後も活動しないと思う理由は何ですか。(1つの番号に○) 単位:%



居住地区別

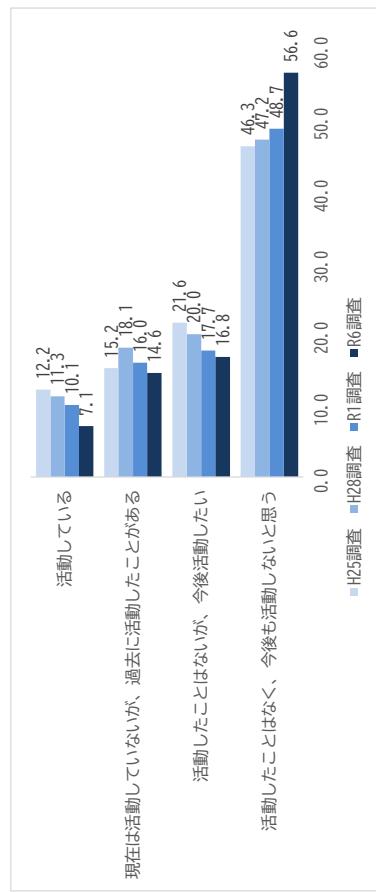
	有効回答数(件)	自治区に加入していない	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	メリット・魅力度がない	家族の理解がない	他人と関わりたくない	面倒だから	その他	無回答
亀崎地区	80	7.5	12.5	20.0	0.0	15.0	12.5	1.3	11.3	3.8	7.5
乙川地区	134	6.7	13.4	13.4	0.0	1.5	9.0	6.7	0.0	13.4	9.7
半田地区	185	8.1	13.5	20.5	1.6	8.6	10.3	0.5	9.7	8.1	6.5
成岩地区	125	7.2	8.0	22.4	1.6	7.2	3.2	0.0	10.4	6.4	7.2
青山地区	88	10.2	20.5	28.4	2.3	13.6	8.0	0.0	19.3	10.2	42.0

「年齢別」にみると、「20代」から「50代」までは「仕事が忙しい」と回答された方の割合が最も高い。「10代」と「80代以上」では「体調がすぐれない」が最も高い。
「居住地区別」にみると、青山地区では、「仕事が忙しい」、「時間を持てない」、「面倒だから」の割合が高い。また、成岩地区では、「時間を持てない」、「メリット・魅力度がない」の割合が他地区よりも少ない。

年齢別

	有効回答数(件)	自治区に加入していない	仕事が忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	メリット・魅力度がない	家族の理解がない	他人と関わりたくない	面倒だから	その他	無回答
10代～20代	54	16.7	42.6	53.7	7.4	5.6	40.7	0.0	29.6	18.5	5.6
30代	63	17.5	28.6	65.1	0.0	3.2	17.5	0.0	22.2	19.0	6.3
40代	50	20.0	26.0	46.0	8.0	18.0	12.0	4.0	20.0	14.0	2.0
50代	42	11.9	31.0	50.0	0.0	11.9	2.4	0.0	31.0	21.4	19.0
60代	45	15.6	26.7	26.7	0.0	26.7	11.1	0.0	22.2	11.1	13.3
70代	40	15.0	7.5	2.5	40.0	7.5	0.0	27.5	12.5	25.0	10.0
80代以上	40	5.0	2.5	0.0	0.0	42.5	5.0	0.0	5.0	2.5	30.0

問16 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○) 単位: %



年齢別	有効回答数(件)	活動している	過去には活動していなかったことがないが、ある	活動したことはないが、思う	も活動したことはないが、思う	無回答
10代～20代	88	2.3	27.3	15.9	54.5	0.0
30代	83	2.4	20.5	12.0	63.9	1.2
40代	94	7.4	10.6	19.1	60.6	2.1
50代	84	7.1	8.3	25.0	57.1	2.4
60代	113	11.5	15.9	19.5	48.7	4.4
70代	86	10.5	9.3	17.4	61.6	1.2
80代以上	80	7.5	10.0	5.0	52.5	25.0

近所付き合いの程度別

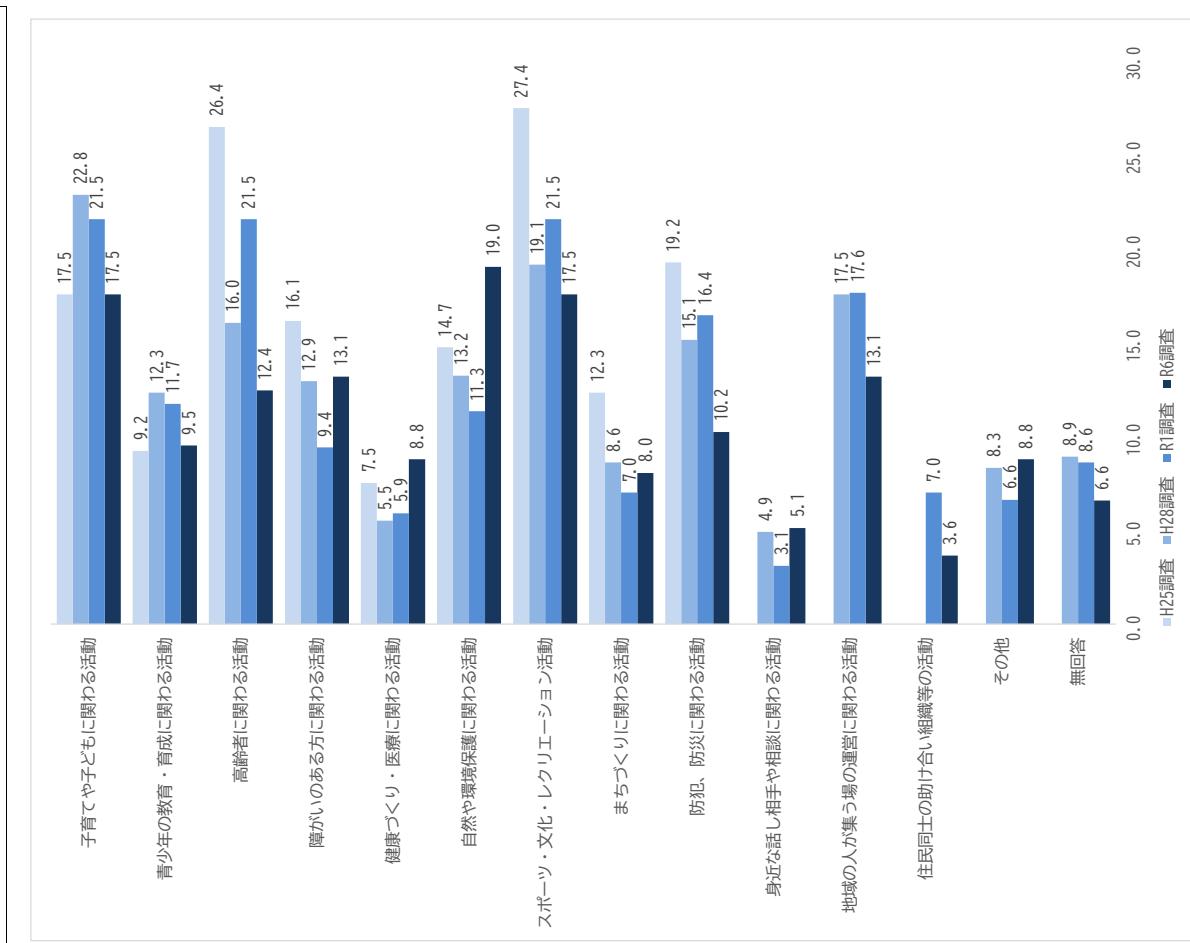
居住地区別	有効回答数(件)	活動している	過去には活動していなかったことがないが、ある	活動したことはないが、思う	も活動したことはないが、思う	無回答
日頃から助け合っている	40	20.0	12.5	15.0	45.0	7.5
気の合った人とは親しくしている	84	7.1	14.3	17.9	53.6	7.1
あいさつはする	341	8.2	15.5	18.8	53.4	4.1
ほとんど付き合いがない	153	1.3	13.1	13.1	70.6	2.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

「活動したことではなく、今後も活動しないと思う」の割合が56.6%最も高い結果となり、「活動している」割合は年々減少している。

年齢別でみると、「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の10～20代の割合が高い。近所付き合いの程度別でみると、「ほとんど付き合いがない」と回答した方の「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が70.6%となっている。居住地区別でみると、いずれの地区においても、「活動したことがなく、今後も活動しないと思う」が半数以上となっている。

問16-1～2は、問16で「活動している」「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方に
お聞きします。

問16-1 どのようなボランティア活動をしていますか。(していましたか)
(あてはまるすべての番号に○)

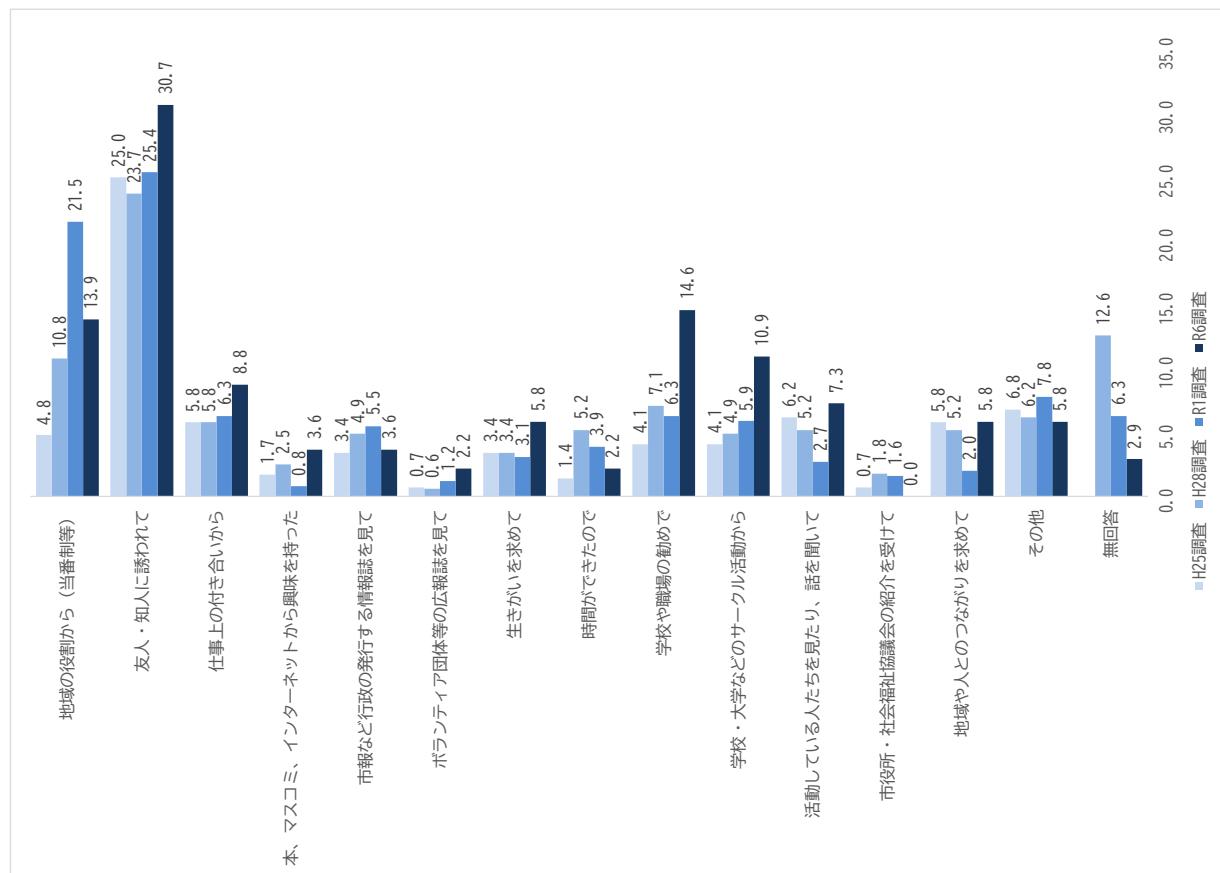


年齢別

年齢別	有効回答数(件)	高齢者に関する活動	障がいのある方に関する活動	まちづくりに関する活動	防犯、防災に関する活動	身近な話し相手や相談に関する活動	地域の人たちが集う場の運営に関する活動	住民同士の助け合い組織等の活動	その他	無回答
10代～20代	26	11.5	11.5	7.7	7.7	46.2	23.1	19.2	7.7	3.8
30代	19	26.3	0.0	10.5	10.5	31.6	21.1	10.5	21.1	5.3
40代	17	5.9	5.9	11.8	17.6	0.0	17.6	11.8	5.9	11.8
50代	13	30.8	23.1	7.7	30.8	15.4	7.7	15.4	7.7	7.7
60代	31	25.8	12.9	6.5	12.9	6.5	9.7	12.9	3.2	16.1
70代	17	11.8	5.9	11.8	17.6	5.9	5.9	23.5	0.0	19.4
80代以上	14	7.1	7.1	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	7.1	14.3

ボランティア活動の種類については、「自然や環境保護に関する活動」、「子育てや児童に関する活動」、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」の割合の順に高い。

問16-2 ボランティア活動をはじめたきっかけは何ですか。(1つの番号に○) 単位:%



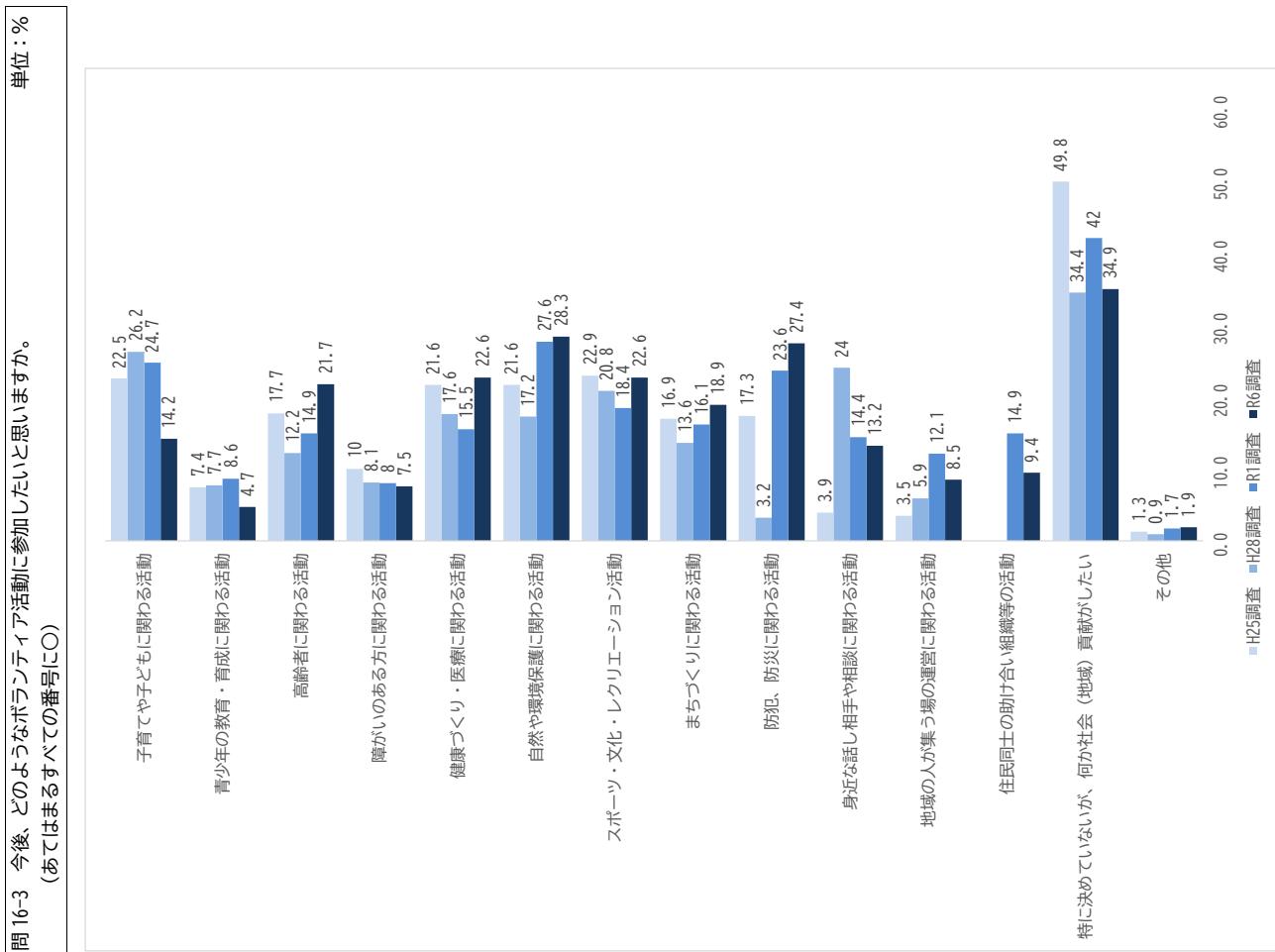
年齢別

地域の後割から(当番制)	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	本、マスコミ、インターネットから興味を持った	市報など行政の発行する情報誌を見て	ボランティア団体等の広報誌を見て	生きがいを求めて	時間ができたので	学校や職場の勤めで	活動している人たちを見たり、話を聞いて	市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて	地域や人のつながりを求めて	その他	無回答	
地域の後割から(当番制)	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	本、マスコミ、インターネットから興味を持った	市報など行政の発行する情報誌を見て	ボランティア団体等の広報誌を見て	生きがいを求めて	時間ができたので	学校や職場の勤めで	活動している人たちを見たり、話を聞いて	市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて	地域や人のつながりを求めて	その他	無回答	
10代	27	11.1	18.5	3.7	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0
20代	19	0.0	21.1	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.1	10.5	0.0	0.0	5.3
30代														
40代	17	11.8	35.3	17.6	11.8	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	23.5	5.9	17.6	5.9
50代	13	7.7	30.8	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7
60代	31	12.9	32.3	6.5	3.2	0.0	0.0	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	9.7
70代	17	11.8	56.8	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
80代以上	14	30.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0

ボランティア活動をはじめたきっかけについては、「友人・知人に説かれて」の割合が最も高い。年代別みると70代が58.8%と最も高い。
今回、「学校や職場の勤めで」、「学校・大学などのサークル活動から」が以前より増加しており、特に若い世代の割合が高い。

問16-3 今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思われますか。
(あてはまるすべての番号に○)

年齢別



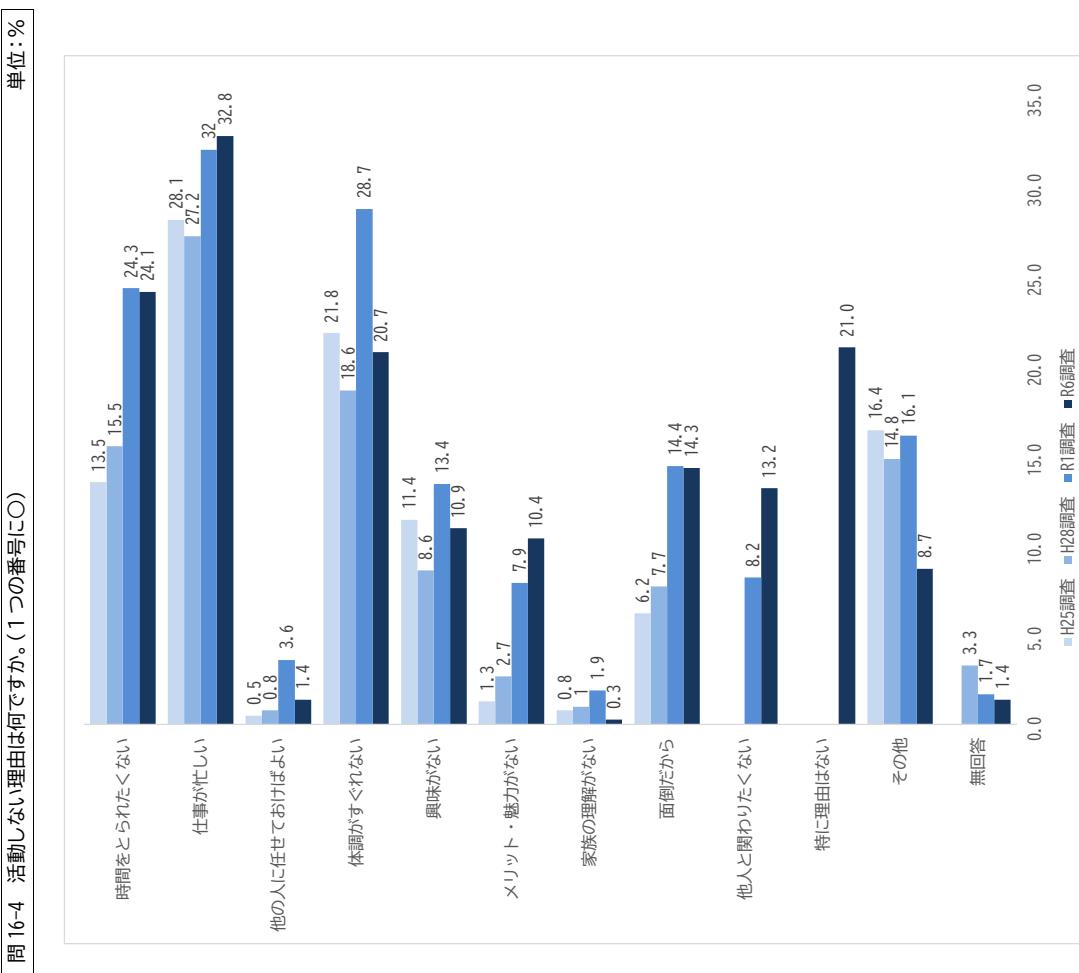
今後参加したいボランティア活動については、「特に決めていないが、何か社会(地域)貢献がしたい」の割合が最も高く、次いで「自然や環境保護に関わる活動」、「防犯、防災に関わる活動」という結果となっている。「子育てや児童に関わる活動」の割合が14.2%と、R1調査の24.7%から減少している。

単位: %

年齢別	有効回答数(件)	高齢者の教育・育成に関わる活動	障がいのある方に関わる活動	活動がいのある方に関わる活動	活動健康づくり・医療に関わる活動	自然や環境保護に関わる活動	まちづくり・文化・レクリエーション活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談に関わる活動	開地域の人たちが集う場の運営に	社会に決めていないが、何か社会(地域)貢献がした何か他の活動
10代～20代	14	42.9	14.3	7.1	7.1	35.7	14.3	28.6	14.3	7.1	7.1
30代	10	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	30.0	40.0	20.0	30.0	10.0
40代	18	5.6	11.1	27.8	16.7	50.0	27.8	22.2	33.3	38.9	11.1
50代	21	9.5	0.0	28.6	4.8	19.0	38.1	4.8	14.3	9.5	4.8
60代	22	9.1	4.5	18.2	0.0	13.6	31.8	27.3	18.2	13.6	9.1
70代	15	6.7	0.0	20.0	13.3	13.3	26.7	13.3	6.7	33.3	13.3
80代以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0

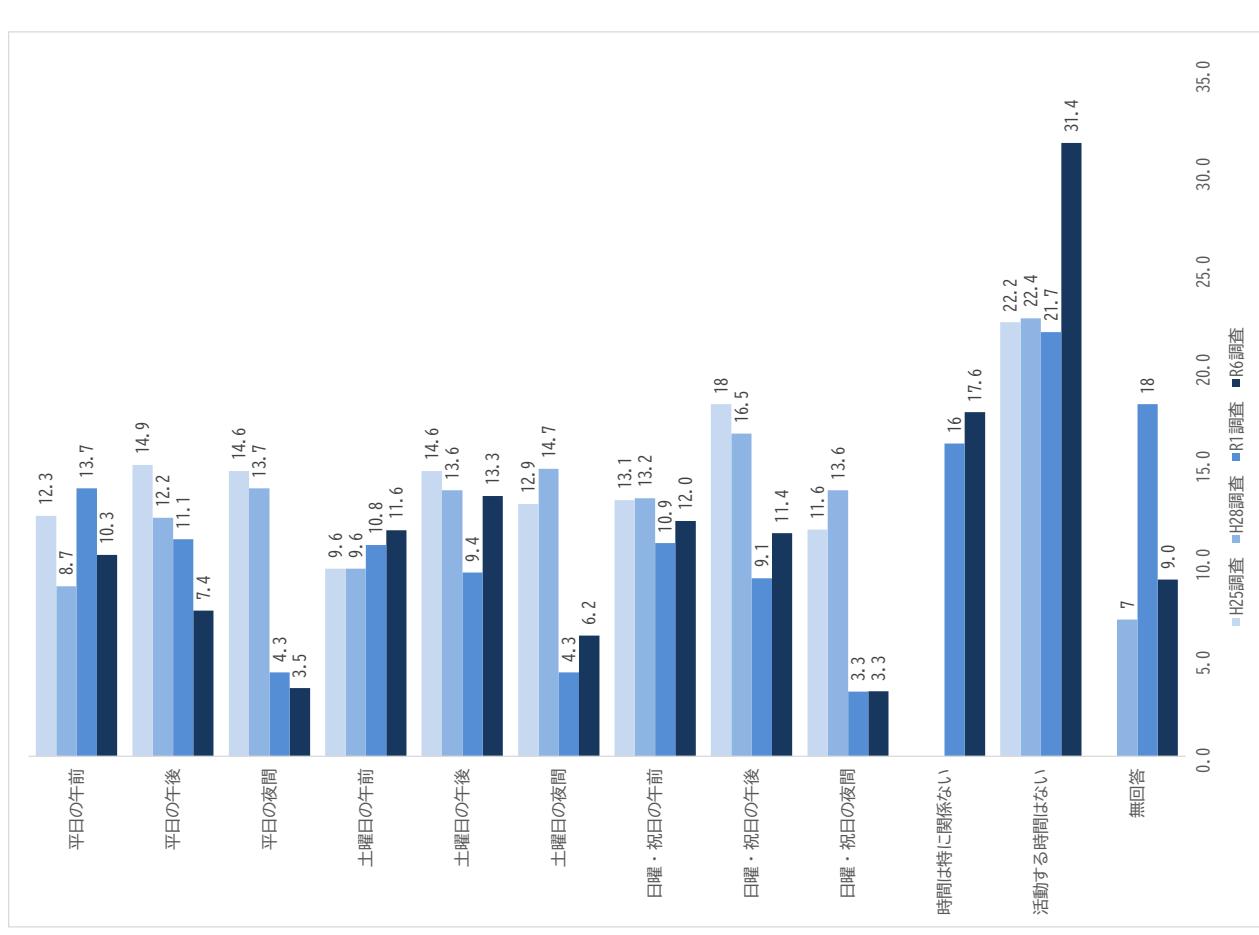
問16で「活動したことではなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします。

年齢別



活動しない理由については、「仕事が忙しい」の割合が32.8%と最も高い。次いで「時間をとられたくない」が24.1%、「特に理由はない」が21.0%となっている。

問17 あなたは、どの時間帯であれば活動ができるですか。(あてはまるすべての番号に○) 単位: %



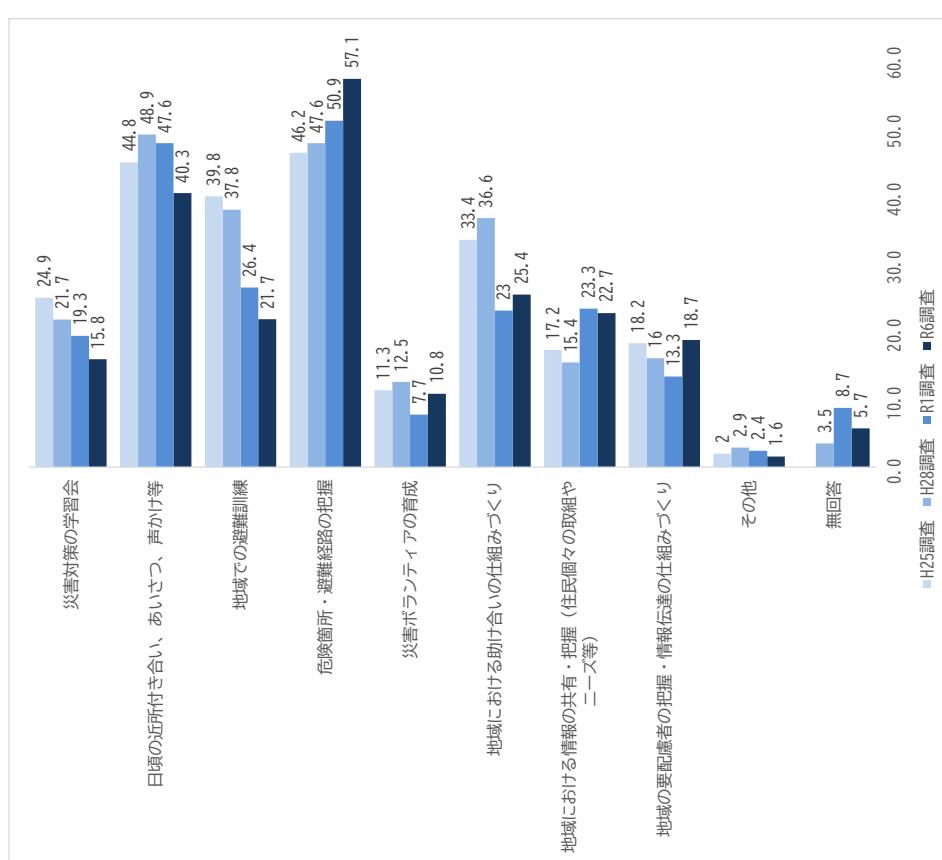
年齢別

年齢別	有効回答数(件)	平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	時間は特に関係ない	活動する時間はない	無回答
10代～20代	88	1.1	2.3	6.8	22.7	28.4	9.1	19.3	2.3	2.3	15.9	33.0	0.0
30代	83	6.0	3.6	3.6	26.5	25.3	9.6	24.1	9.6	9.6	20.5	32.5	0.0
40代	94	6.4	5.3	7.4	8.5	13.8	16.0	11.7	3.2	3.2	20.2	30.9	2.1
50代	84	2.4	1.2	3.6	9.5	13.1	7.1	9.5	9.5	9.5	13.1	46.4	2.4
60代	113	16.8	9.7	1.8	6.2	6.2	1.8	6.2	2.7	2.7	19.5	36.3	4.4
70代	86	14.0	18.6	0.0	5.8	4.7	0.0	8.1	0.0	0.0	25.6	22.1	14.0
80代以上	80	23.8	10.0	0.0	3.8	3.8	0.0	2.5	7.5	7.5	16.3	43.8	

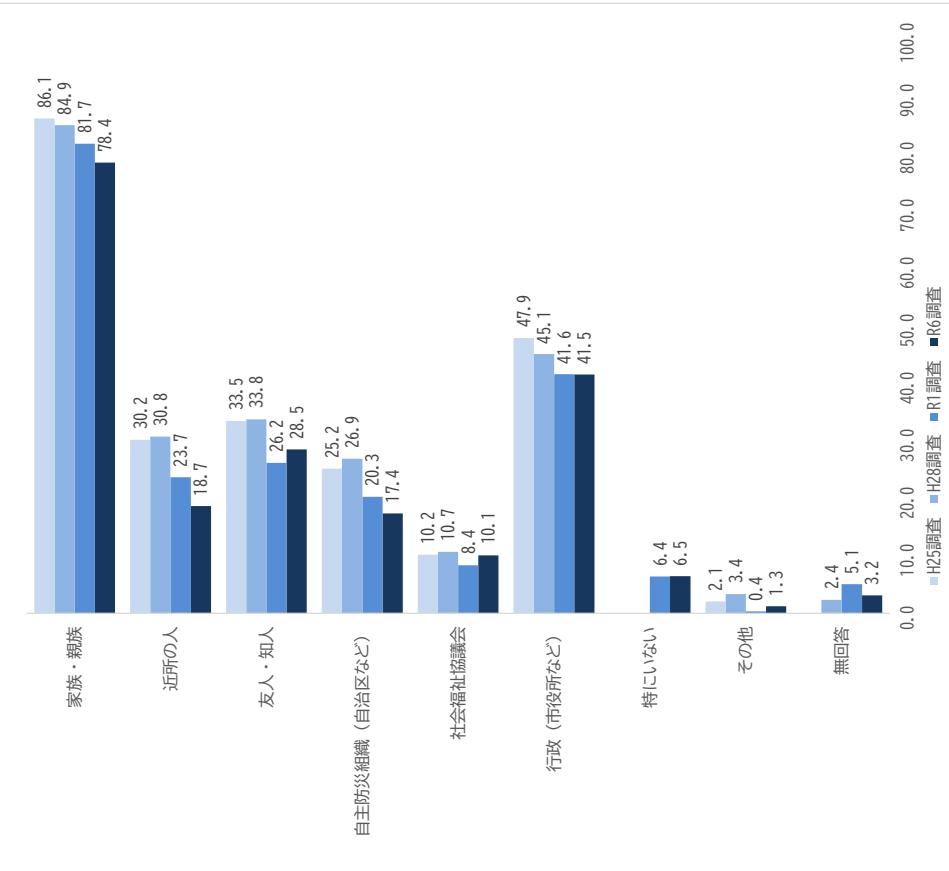
活動ができる時間帯については、「時間は特に関係ない」の割合が17.6%と最も高い(「活動する時間はない」を除く)。
また、「活動する時間はない」の割合が31.4%と、R1調査の21.7%から増加している。

4 災害時における助け合いについて

問18 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたのお住む地域における災害時の備えとして、どのようにことが重要だと思いますか。（3つまで番号に○）
単位：%



問19 大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。（あてはまるすべての番号に○）
単位：%



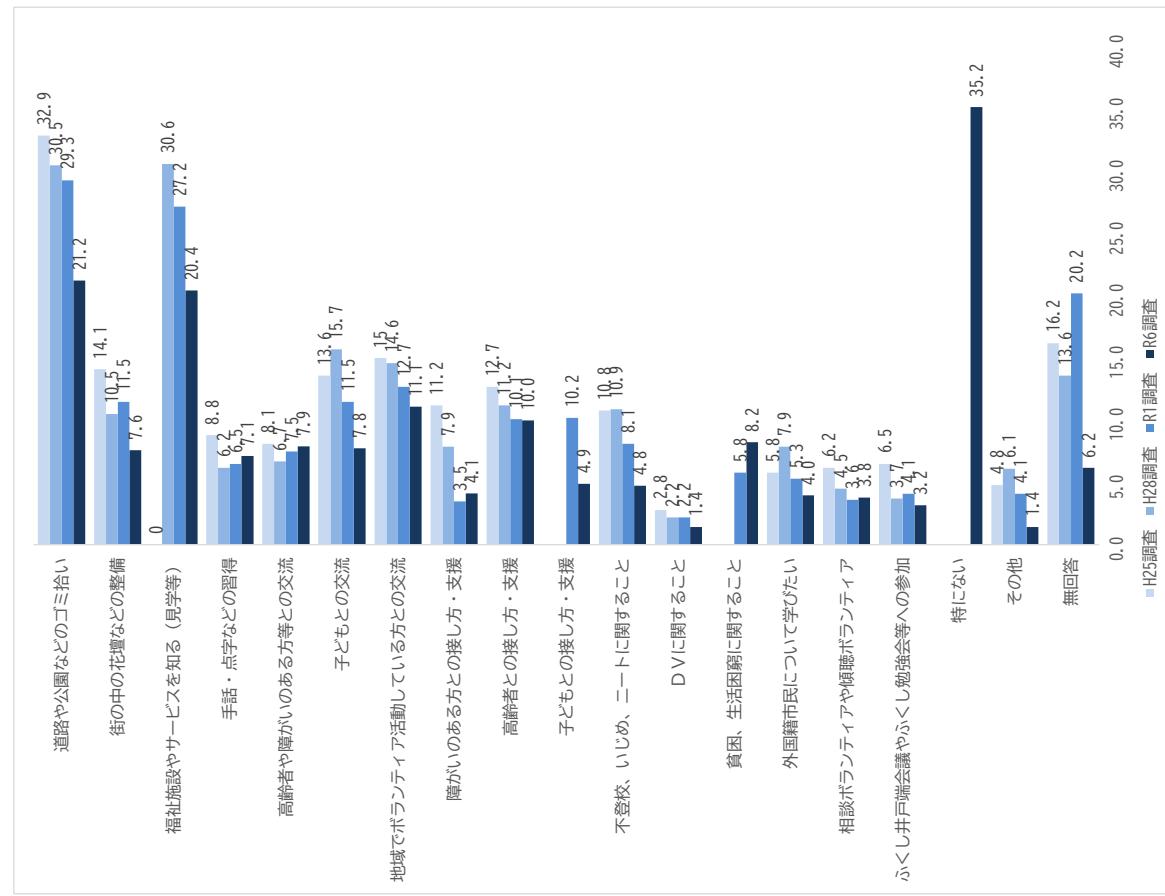
「危険箇所・避難経路の把握」が、57.1%と最も多く。「日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等」が2番目に多いが、R1調査より低下し40.3%となっている。

居住地区別

5 地域の課題について

問20 あなたは地域の課題に対して、どのような活動をしたり、学んだりしたいと思いませんか。
(3つまで番号に○)

単位: %

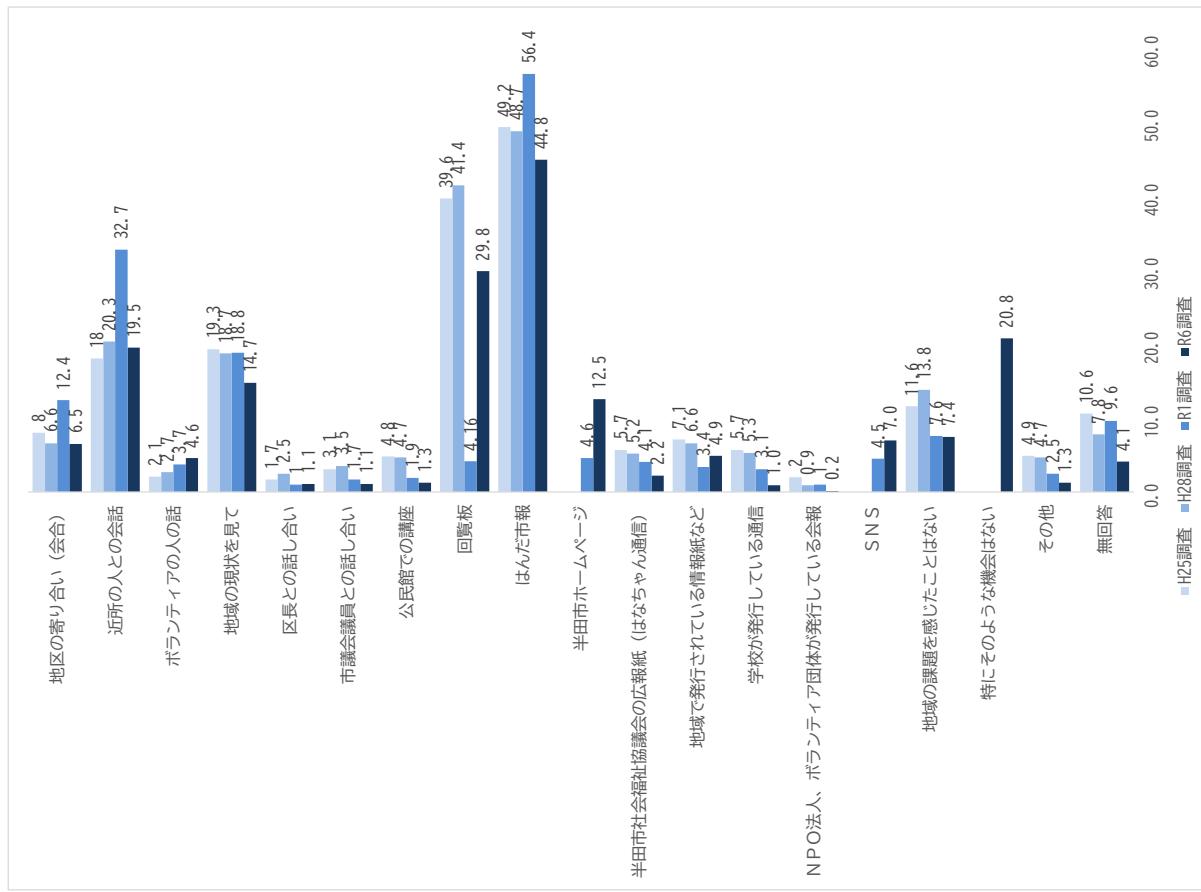


	有効回答数(件)	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	社会福祉協議会	行政	特にいない	その他	無回答
亀崎地区	80	91.3	30.0	28.8	16.3	5.0	36.3	1.3	0.0	0.0
乙川地区	134	76.1	21.6	27.6	18.7	3.7	41.8	0.0	2.2	2.2
半田地区	185	75.1	13.0	24.9	18.9	9.2	43.2	1.6	3.2	3.2
成岩地区	125	77.6	20.0	34.4	17.6	13.6	47.2	0.0	4.8	4.8
青山地区	88	81.8	12.5	27.3	11.4	8.0	34.1	4.5	3.4	3.4

	有効回答数(件)	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	社会福祉協議会	行政	特にいない	その他	無回答
日頃から助け合っている	45	75.6	55.6	40.0	31.1	13.3	46.7	2.2	4.4	4.4
気の合った人は親しくしている	92	80.4	46.7	35.9	23.9	15.2	45.7	1.1	7.6	7.6
あいさつはする	351	80.6	16.0	27.9	18.5	10.0	41.3	0.9	2.6	2.6
ほとんど付き合いがない	155	72.9	1.9	23.9	7.7	7.7	36.8	1.9	2.6	2.6
その他	2	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

頼りにする人について、「家族・親族」が、最も多い。地区別にみると、「東峰地区」は「家族・親族」と回答されている割合が最も多い。

「問8 近隣の人との付き合い程度」のアンケート結果と照らし合わせると、「日ごろから助け合っている」と回答された方は、本質問で被災後の生活で頼りにする人は、「近所の人」と回答された数が多く、日ごろから助け合っている方は近所の人を頼りとしている結果となった。



居住地区別

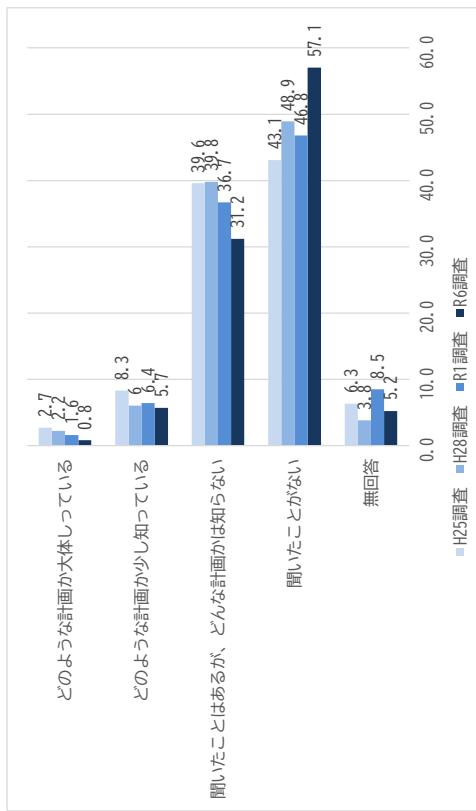
「特にない」が、最も多い。「年代別」にみると、「50代」以上の中では、「福祉施設やサービスを知る（見学等）」の割合が20%を超えている。地区別にみると、「青山地区」で「福祉施設やサービスを知る（見学等）」と回答された方の割合が多い。

別
方
論

東京都地域福祉計画

問22 半田市地域福祉計画をご存知ですか。（1つの番号に○）

单位：%



「聞いたことがない」と最も多い。「年代別」にみると「20代以下」の70%以上が「聞いたことがない」と回答している。

地域の課題を感じたことはない地域										その他の理由		無回答							
SNSによる会報アピールが普及している地域										SNSによる会報アピールが普及していない地域		その他							
SNSによる会報アピールが普及していない地域										SNSによる会報アピールが普及している地域		その他							
有効回答数(件)	0代~20代	21代~30代	31代~40代	41代~50代	51代~60代	61代~70代	71代~80代	81代~90代	90代以上	0代~20代	21代~30代	31代~40代	41代~50代						
88	5,7	12,5	3,4	21,6	2,3	2,3	12,5	23,9	11,4	1,1	3,4	2,3	0,0	13,6	10,2	33,0	0,0	0,0	
83	2,4	12,0	1,2	21,7	1,2	0,0	13,3	36,1	14,5	0,0	6,0	0,0	0,0	13,3	14,5	28,9	1,2	1,2	
94	4,3	16,0	3,2	13,8	0,0	0,0	1,1	18,1	44,7	19,1	0,0	7,4	2,1	0,0	13,8	9,6	20,2	3,2	2,1
84	9,5	10,7	4,8	15,5	2,4	0,0	1,2	23,8	42,9	15,5	1,2	6,0	1,2	1,2	3,6	3,6	23,8	1,2	0,0
113	7,1	19,5	8,8	15,9	0,0	1,8	0,0	41,6	54,9	16,8	3,5	2,7	0,0	0,9	1,8	3,5	17,7	0,9	4,4
86	7,0	26,7	3,5	7,0	1,2	0,0	1,2	52,3	61,6	3,5	2,3	1,2	0,0	3,5	3,5	14,0	1,2	7,0	
80	8,8	38,8	6,3	6,3	1,3	2,5	3,8	46,3	47,5	6,3	7,5	6,3	0,0	0,0	0,0	3,8	7,5	1,3	15,0

別地区主住

地域の課題を感じたことはない										無回答
特にそのような機会はない										その他
団体P法人によるボランティア活動を行っている会報										地域の課題を感じたことはない
有効回答数(件)	地区の寄り合い(会合)	近所の人との会話	ボランティアの人の話	地域の現状を見て	区長との話し合い	公民館での講座	市議会議員との話し合い	回覧板	半田市ホームページ	報紙(はなちゃん通信会の広報)
80	8.8	22.5	10.0	13.8	6.3	1.3	3.8	41.3	6.3	3.8
134	7.5	20.9	6.0	9.0	0.0	2.2	0.0	34.3	52.2	12.7
185	4.9	17.8	3.2	16.8	0.5	1.1	25.4	41.1	14.1	1.1
125	7.2	20.8	2.4	20.0	0.8	0.8	1.6	28.0	49.6	14.4
88	3.4	14.8	4.5	13.6	0.0	0.0	1.1	29.5	37.5	12.5
75	2.5	11.3	1.3	11.3	0.0	0.0	0.0	29.3	37.3	12.0

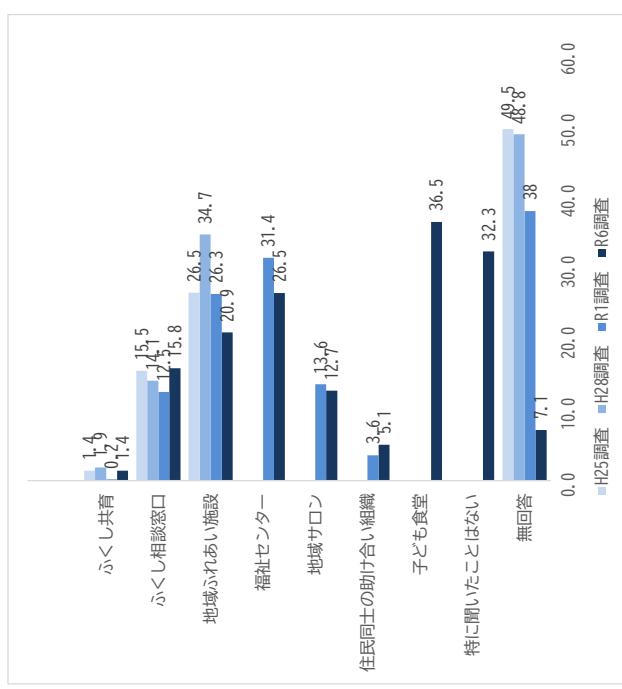
「はんだ市報」と「回覧板」が多い。令和元年度調査と比べ、「回覧板」と「半田市ホームページ」が増加して

「年齢別」にみると、「10代」から「30代」は「SNS」と回響された方が「10%以上」となつておる、「60代」以上

は「回覧板」が40%以上となっている。

卷之三

問23 以下の項目で知っている・聞いたことのあるもの何ですか。(あてはまるすべての番号に○) 単位:%



■H25調査 ■R1調査 ■R6調査

居住地区別

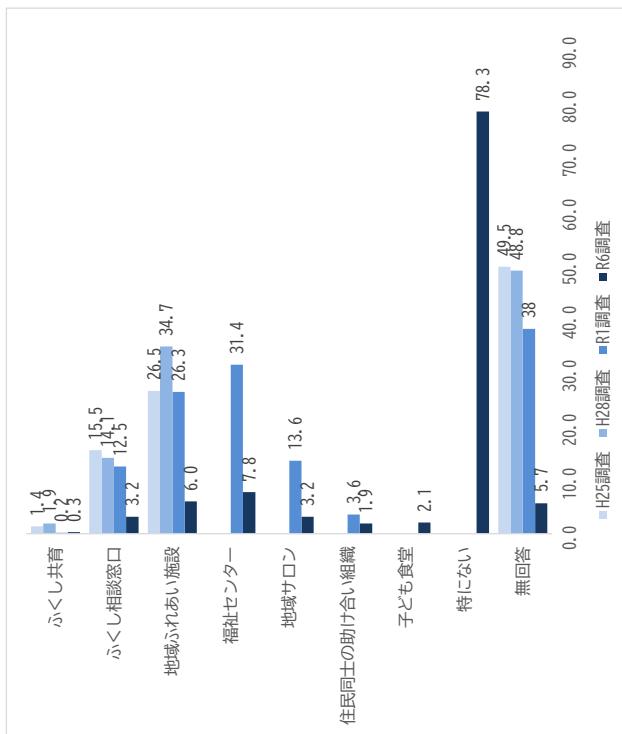
	有効回答数(件)	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特に聞いたことはない	無回答
亀崎地区	80	0.0	16.3	21.3	41.3	13.8	8.8	32.5	28.8	2.5
乙川地区	134	1.5	21.6	32.1	21.6	9.7	3.0	35.1	29.1	9.0
半田地区	187	2.1	11.2	20.3	24.6	10.7	5.3	38.5	29.9	8.6
成岩地区	125	2.4	17.6	16.8	27.2	20.8	4.8	45.6	36.8	3.2
青山地区	88	0.0	15.9	10.2	26.1	10.2	3.4	27.3	37.5	9.1

令和6年度調査より項目を新設した「子ども食堂」が最も多い。子ども食堂が地域にとって身近なものであることが分かる結果となった。
 「年齢別」にみると、「60代以上」では「地域ふれあい施設」や「福祉センター」の割合が高く、「30代以下」と「50・60代」において「子ども食堂」の割合が高い。
 地区別にみると、「乙川地区」で「地域ふれあい施設」の割合が多い。

年齢別

	有効回答数(件)	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特に聞いたことはない	無回答
10代~20代	89	1.1	9.0	20.2	37.1	3.4	1.1	43.8	31.5	0.0
30代	83	3.6	14.5	10.8	19.3	13.3	1.2	42.2	41.0	2.4
40代	94	3.2	17.0	14.9	20.2	12.8	5.3	37.2	37.2	4.3
50代	84	0.0	15.5	19.0	25.0	13.1	6.0	45.2	29.8	2.4
60代	113	1.8	20.4	25.7	24.8	16.8	6.2	40.7	31.0	7.1
70代	86	0.0	12.8	29.1	30.2	17.4	5.8	26.7	26.7	15.1
80代以上	80	0.0	20.0	25.0	30.0	10.0	7.5	16.3	28.8	20.0

問24 以下の項目で参加（利用）したことがあるものは何ですか。（あてはまるすべての番号に○） 単位：%



居住地区別

	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	住民同士の助け合い組織	福祉セントラル	地域サロン	ふくし共育	子ども食堂	特になし	無回答
亀崎地区	80	0.0	1.3	6.3	10.0	3.8	3.8	0.0	78.8	3.8	
乙川地区	134	0.0	5.2	7.5	8.2	0.7	1.5	1.5	73.9	7.5	
半田地区	185	0.5	3.2	7.6	7.6	3.2	1.6	2.2	78.9	5.9	
成岩地区	125	0.8	3.2	8.0	4.8	1.6	2.4	2.4	80.8	4.8	
青山地区	88	0.0	1.1	2.3	6.8	3.4	1.1	1.1	84.1	3.4	

「特にない」が最も多く、知つてはいるが参加（利用）していない方が多いことがわかる。年代別にみると、70代以上で「地域ふれあい施設」や「福祉センター」と回答された方が多い。「地区別」にみると、「成岩地区」において「地域サロン」の割合が最も高い。また、乙川地区で「ふくし相談窓口」の割合が高い。

年齢別

年齢別	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	住民同士の助け合い組織	福祉セントラル	地域サロン	ふくし共育	子ども食堂	特になし	無回答
10代~20代	88	0.0	2.3	5.7	9.1	1.1	1.1	3.4	83.0	0.0	
30代	83	0.0	2.4	2.4	1.2	3.6	1.2	2.4	90.4	1.2	
40代	94	1.1	6.4	4.3	5.3	4.3	3.2	2.1	83.0	3.2	
50代	84	0.0	0.0	2.4	6.0	1.2	0.0	0.0	90.5	0.0	
60代	113	0.9	2.7	2.7	8.0	1.8	2.7	2.7	80.5	4.4	
70代	86	0.0	3.5	15.1	12.8	4.7	0.0	2.3	65.1	10.5	
80代以上	80	0.0	3.8	10.0	12.5	5.0	3.8	0.0	55.0	21.3	

地域福祉とは？

高齢者や子ども、障がいのある方など、市民のみなさんが自分らしい生活をおくることができるよう、同じ地域に暮らすみんなさんが支え合い、力を合わせて自分達が住んでいるまちを暮らしあくする取り組み、それが『地域福祉』です。

「第3次半田市地域福祉計画」策定にあたつて のアンケート調査

～調査のご協力のお願い～

市民のみなさまには、日頃より半田市政への理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、公的なサービスはもとより、地域のみなさまの助け合い、支え合いによって、誰もが地域で安心して暮らすことのできる社会の実現をめざし、平成22年度に『第1次半田市地域福祉計画』、後継の計画として令和3年度に現『第2次半田市地域福祉計画』を策定しました。現計画が令和7年度末に期間満了となるため、この度、『第3次半田市地域福祉計画』（計画期間：令和8年度から5年間）を策定するため、この度、『第3次半田市地域福祉計画』を策定することとなりました。

本アンケート調査は、第3次計画の策定にあたり、市民のみなさまにご意見をいただき、こののちの施策等を検討する貴重な資料として使わせていただくために実施するものです。なお、調査対象の方は本市在住の18歳以上の方の中から、無作為に2,000人の方を抽出しております。

ご記入いただいた内容については、すべて統計的に処理いたしますので、回答者が個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたりすることは一切ありません。

ご多忙のことご諒解ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

半田市長 久世 孝宏

令和6年12月

◆ ご記入にあたつてのお願い ◆

・ご回答は、できるかぎり宛名のご本人にお願いしますが、ご本人のみで記入が難しい場合は、ご家族の方や一緒にお住まいの方にもご協力いただきますようお願いします。
・この調査は無記名式ですので、調査票にお名前を記入する必要はありません。
・ご回答については令和7年1月10日（金）までに右上のQRコードからWEB上でご回答いただくか、調査票にご記入いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。（切手は不要です。）

【お問い合わせ】半田市福祉部地域福祉課 担当 村上、黒野
電話：(0569) 84-0641 FAX：(0569) 22-2904

あなたご自身（ご本人）についてお聞きします。

問1 あなたの性別についてお答えください。（1つの番号に○）

1. 男 2. 女 3. その他（ ）

問2 あなたの年齢についてお答えください。（1つの番号に○）

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上

問3 あなたの家族構成等についてお答えください。（1つの番号に○）

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ
3. 親子のみ
4. 親子と祖父母（曾祖父母）
5. その他（ ）

＜問3で「1. 一人暮らし」と答えた方にお聞きします＞

【問3-1】緊急時に連絡が取れる親族はいますか。

1. いる 2. いない（身寄りがない）

問4 あなたの世帯の状況についてお答えください。（あてはまるすべての番号に○）

1. 子育てをしている 2. 介護が必要な高齢者（65歳以上の方）と同居している
3. 支援が必要な障がいのある方と同居している
4. その他1～3に類する状況（ ） 5. 1～4に該当しない

問5 あなたは半田市（中学校区）に住んで何年ですか。（1つの番号に○）

1. 6か月未満 2. 1年未満 3. 1年以上 4. 3年以上
5. 5年以上 6. 10年以上 7. 20年以上 8. 30年以上

問6 あなたの住んでいる地区（中学校区）はどこですか。（1つの番号に○）

1. 鶴崎地区 2. 乙川地区 3. 半田地区 4. 成岩地区
5. 青山地区 6. わからない（町名をお書きください： ）

問7 あなたの職業についてお答えください。(1つの番号に○)

- 1. 会社員・団体職員（常勤）
- 2. 自営業
- 3. 農業
- 4. 教員（常勤）
- 5. 公務員（常勤）
- 6. 派遣従業員
- 7. パート／アルバイト／内職
- 8. 学生
- 9. 無職
- 10. その他（ ）

あなたの日常生活のことについてお聞きします。

問8 近隣の人とは、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○)

- 1. 日頃から助け合っている
- 2. 気の合った人は親しくしている
- 3. あいさつはする
- 4. ほとんど付き合いがない
- 5. その他（ ）

問9 あなたは、日常生活の中で、どのような悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるすべての番号に○)

- 1. 自分の健康に関すること
- 2. 家族の健康に関すること
- 3. 介護・障がいのある方への支援に関するこ
- 4. 仕事に関するこ
- 5. 近所付き合いに関するこ
- 6. 生きがい・将来に関するこ
- 7. 住まいに関するこ
- 8. 収入や家計に関するこ
- 9. 子どもに関するこ
- 10. 災害に関するこ
- 11. ひきこもりに関するこ（自分）
- 12. ひきこもりに関するこ（家族）
- 13. その他（ ）
- 14. 特にない

問10 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるすべての番号に○)

- 1. 家族・親族
- 2. 近所の人
- 3. 友人・知人
- 4. 学校や保育園、幼稚園
- 5. 民生委員・児童委員
- 6. 区長・町内会長
- 7. 福祉事業所・施設等の職員
- 8. 社会福祉協議会
- 9. 市役所
- 10. 医療機関
- 11. 県・保健所相談窓口
- 12. その他（ ）
- 13. 相談していない

<問10で「13. 相談していない」と答えた方にお聞きします>

【問10-1】なぜ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

- 1. 他人に頼らずに、自分で解決したい
- 2. 信頼できる人・相談できる人がいない
- 3. 見知りの人に相談するのは気まずい
- 4. 身近に相談窓口がない
- 5. なんなく相談しづらい
- 6. 今までに困ったことがない
- 7. どこに（誰に）相談したらよいのか分からぬ
- 8. その他（ ）

問11 あなたは、自分が孤独であると感じることがありますか。(1つの番号に○)

- 1. 全くない
- 2. ほとんどない
- 3. 時々ある
- 4. 常に感じる

問12 近所の人の中と困りごと支援や助け合い活動として、あなたができると思うことは何ですか。(あてはまるすべての番号に○)

- 1. 声かけ
- 2. 話し相手
- 3. 草取りや電球の取り換えなどの簡単な作業
- 4. ちょっとした買い物の手伝い
- 5. ゴミ出し
- 6. 家の掃除
- 7. 料理の手伝い
- 8. 洗濯
- 9. 短時間の子どもの預かり
- 10. 子育ての相談
- 11. 生活についての相談
- 12. 知っている情報や相談窓口を伝える
- 13. 市役所・社会福祉協議会（包括支援センター、障がい者相談支援センター、ボランティアセンター）へ連絡
- 14. その他（ ）
- 15. 特にない

問13 あなたは、今後どのようにであれば地域に関わることができますか。
(あてはまるすべての番号に○)

- 1. 地域のイベントや作業への参加
- 2. 地域活動のために土地を貸す
- 3. 地域住民がふれあえる場所として、空き家・空き店舗を貸す
- 4. 農業、建築土木、IT等の自己の持つ専門知識の提供
- 5. スポーツやレクリエーション、文化活動等の指導
- 6. 地域サロン※(1)等、地域住民が集う場所でのお手伝い
- 7. 地域の防犯のための見回り
- 8. 災害が起こった場合に高齢者等、一人での避難が困難な方への支援
- 9. 身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場（くくし井戸端会議※(2)等）への参加
- 10. 住民同士の助け合い組織※(3)等への参加
- 11. 寄附
- 12. 区長・民生委員等になる
- 13. その他（ ）

- ※(1)介護予防、子育てその他様々な目的のため、有志の方々が運営している交流の場
- ※(2)地域住民が主体となり、地域の福祉課題等を話し合う場
- ※(3)同じ地域に住む人のちょうどした困りごとや簡単な作業などのお手伝いをするため、地域住民が結成、運営している組織

【現在市内に5団体（亀崎思いやり応援隊、住吉させたい、やなべお助け隊、ならわ思いやり隊、あおやまお助け隊）が組織化され、活動しています。】

問14 あなたたは福祉に関するどのような情報を得たいですか。（あてはまるすべての番号に○）

- 1. 介護や障がい福祉サービス等に関する情報
- 2. 保育や子育てに関する情報
- 3. ボランティアに関する情報
- 4. 就労に関する情報
- 5. 就学に関する情報
- 6. 健康に関する情報
- 7. 各種福祉講座や教室、講習会の開催状況
- 8. 特に得たい情報はない
- 9. その他（）

自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動についてお聞きします。

問15 あなたたは、自治区やコミュニティなどで地域の活動をしていますか。（1つの番号に○）

- 1. 活動している → 間15-1・15-2・15-3へ
- 2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある → 間15-4へ
- 3. 活動したことではないが、今後活動したい → 間15-5へ
- 4. 活動したことではなく、今後も活動しないと思う → 間15-6へ

＜問15で「1. 活動している」と答えた方にお聞きします＞

【問15-1】どの程度活動をしていますか。（1つの番号に○）

- 1. 積極的に活動している
- 2. ときどき活動している
- 3. 誘われた時に活動している

【問15-2】どのような活動をしていますか。（あてはまるものすべての番号に○）

- 1. 自治区の活動
- 2. 子ども会の活動
- 3. スポーツクラブの活動
- 4. 老人クラブの活動
- 5. 地域防災の活動
- 6. 地域サロン等の活動
- 7. 地域の祭り
- 8. その他（）

【問15-3】どのような目的で活動していますか（1つの番号に○）

- 1. 地域をよりよいものにしたい
- 2. 隣近所とのふれあいを求めて
- 3. 自分自身の向上のため
- 4. 近所付き合いなどで仕方なく
- 5. 特に理由はない
- 6. その他（）

＜問15で「2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがあります」「3. 活動したことないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きします＞

【問15-4】現在活動していない主な理由は何ですか。（1つの番号に○）

- 1. 自治区に加入していない
- 2. 引っ越しして間もない
- 3. 時間がない
- 4. 仕事などの都合で機会がない
- 5. 参加方法がわからない
- 7. その他（）

問14 「4. 活動したことではなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします>

【問15-5】今後も活動しないと思う理由は何ですか。（あてはまるすべての番号に○）

- 1. 自治区に加入していない
- 2. 時間をとられたくない
- 3. 仕事が忙しい
- 4. 他の人に任せおけばよい
- 5. 体調がすぐれない
- 6. メリット・魅力がない
- 7. 家族の理解がない
- 8. 面倒だから
- 9. 他人と関わりたくない
- 10. その他（）

問15 あなたたはボランティア活動をしていますか。（1つの番号に○）

1. 活動している → 間16-1・16-2へ

2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある → 間16-3へ

3. 活動したことないが、今後活動したい → 間16-4へ

4. 活動したことなく、今後も活動しないと思う → 間16-5へ

問16 あなたたはボランティア活動をしていますか。（1つの番号に○）

1. 活動している → 間16-1・16-2へ

2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある → 間16-3へ

3. 活動したことないが、今後活動したい → 間16-4へ

4. 活動したことなく、今後も活動しないと思う → 間16-5へ

＜問16で「1. 活動している」「2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方にお聞きします>

【問16-1】どのようなボランティア活動をしていますか。（していましたか。）（あてはまるすべての番号に○）

- 1. 子育てや子どもに関わる活動
- 2. 青少年の教育・育成に関わる活動
- 3. 高齢者に関わる活動
- 4. 障がいのある方に関わる活動
- 5. 健康づくり・医療に関わる活動
- 6. 自然や環境保護に関わる活動
- 7. スポーツ・文化・レクリエーション活動
- 8. まちづくりに関わる活動
- 9. 防犯、防災に関わる活動
- 10. 身近な話し相手や相談に関わる活動
- 11. 地域の人が集う場の運営に関わる活動
- 12. 住民同士の助け合い組織等の活動
- 13. その他（）

【問16-2】ボランティア活動をはじめたきっかけは何ですか。（1つの番号に○）

- 1. 地域の役割から（当番制等）
- 2. 友人・知人に誘われて
- 3. 仕事上の付き合いから
- 4. 本・マスコミ、インターネットから興味を持った
- 5. 市報など行政の発行する情報誌を見て
- 6. ボランティア団体等の広報誌を見て
- 7. 生きがいを求めて
- 8. 時間ができたので
- 9. 学校や職場の始めで
- 10. 学校・大学などのサークル活動から
- 11. 活動している人たちを見たり、話を聞いて
- 12. 市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて
- 13. 地域や人とのつながりを求めて
- 14. その他（）

<問16で「3. 活動したことないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きします>

【問16-3】今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いませんか。

1. 子育てや子どもに関わる活動
2. 青少年の教育・育成に関わる活動
3. 高齢者に関わる活動
4. 障がいのある方に関わる活動
5. 健康づくり・医療に関わる活動
6. 自然や環境保護に関わる活動
7. スポーツ・文化・レクリエーション活動
8. まちづくりに関わる活動
9. 防犯、防災に関わる活動
10. 身近な話し相手や相談に関わる活動
11. 地域の人人が集う場の運営に関わる活動
12. 住民同士の助け合い組織等の活動
13. 特に決めていないが、何か社会（地域）貢献がしたい
14. その他（ ）

<問16で「4. 活動したことなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします>

【問16-4】活動しない理由は何ですか。（あてはまるすべての番号に○）

1. 時間をとられたくない
2. 仕事が忙しい
3. 他の人に任せておけばよい
4. 体調がすぐれない
5. 興味がない
6. メリット・魅力がない
7. 家族の理解がない
8. 面倒だから
9. 他人と関わりたくない
10. 特に理由はない
10. その他（ ）

災害時における助け合いについてお聞きします。

【問18】南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたのお住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで番号に○）

1. 災害対策の学習会
 2. 日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等
 3. 地域での避難訓練
 4. 危険箇所・避難経路の把握
 5. 災害ボランティアの育成
 6. 地域における助け合いの仕組みづくり
 7. 地域における情報の共有・把握（住民個々の取組やニーズ等）
 8. 地域の要配慮者^{※(4)}の把握・情報伝達の仕組みづくり
 9. その他（ ）
- ※(4)高齢者、障がいのある方、乳幼児その他の特に配慮を要する方

【問19】大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。（あてはまるすべての番号に○）

1. 家族・親族
2. 近所の人
3. 友人・知人
4. 自主防災組織（自治区など）
5. 社会福祉協議会
6. 行政（市役所など）
7. 特にいない
8. その他（ ）

地域の課題についてお聞きします。

【問20】あなたは地域の課題に対して、どのような活動をしたり、学んだりしたいと思いませんか。（あてはまるすべての番号に○）

1. 道路や公園などのゴミ拾い
 2. 街の中の花壇などの整備
 3. 福祉施設やサービスを知る（見学等）
 4. 手話・点字などの習得
 5. 高齢者や障がいのある方との交流
 6. 子どもとの交流
 7. 地域でボランティア活動している方との交流
 8. 障がいのある方との接し方・支援
 9. 高齢者との接し方・支援
 10. 子どもとの接し方・支援
 11. 不登校、いじめ、ニートに関するここと
 12. DV^{※(5)}に関するここと
 13. 貧困、生活困窮^{※(6)}に関するここと
 14. 外国籍市民について学びたい
 15. 相談ボランティアや傾聴ボランティア
 16. ふくしま戸端会議やふくし勉強会等への参加
 17. 特にない
 18. その他（ ）
- ※(5)配偶者やパートナーなど、親しい者（親しかった者）から加えられる暴力。
※(6)就職・住まい・家計など、様々な事情で生活に困っている状態。

問21 あなたが地域の課題を知る・感じる機会は、次のうちどのようなときですか。（3つまで番号に○）

1. 地区の寄り合い（会合）
2. 近所の人との会話
3. ボランティアの人の話
4. 地域の現状を見て
5. 区長との話し合い
6. 市議会議員との話し合い
7. 公民館での講座
8. 回覧板
9. はんだ市報
10. 半田市ホームページ
11. 半田市社会福祉協議会の広報紙（はなちゃん通信）
12. 地域で発行されている情報紙など
13. 学校が発行している通信
14. NPO法人、ボランティア団体が発行している会報
15. SNS（インターネット上で、情報の発信、共有等を行うことのできるWebサービス。ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。）
16. 地域の課題を感じたことはない
17. 特にそのような機会はない
18. その他（ ）

半田市地域福祉計画についてお聞きします。

問22 半田市地域福祉計画をご存知ですか。（1つの番号に○）

1. どのような計画か大体知っている
2. どのような計画か少し知っている
3. 聞いたことはあるが、どんな計画かは知らない
4. 聞いたことがない

問23 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. ふくし共育
2. ふくし相談窓口（様々な福祉に関する相談）
3. 地域ふれあい施設（有職ふれあいセンター、フレンド乙川、さくらの家、かりやど憩の家、やなべふれあいセンター）
4. 福祉センター（福祉センター（瀧上工業雇宿ホール内）、亀崎地域総合福祉センター）
5. 地域サロン
6. 住民同士の助け合い組織（お助け隊など）
7. 子ども食堂
8. 特に聞いたことはない

問24 以下の項目で参加（利用）したことがあるものは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. ふくし共育
2. ふくし相談窓口（様々な福祉に関する相談）
3. 地域ふれあい施設（有職ふれあいセンター、フレンド乙川、さくらの家、かりやど憩の家、やなべふれあいセンター）
4. 福祉センター（福祉センター（瀧上工業雇宿ホール内）、亀崎地域総合福祉センター）
5. 地域サロン
6. 住民同士の助け合い組織（お助け隊など）
7. 子ども食堂
8. 特にない

◎ 高齢者や子ども、障がいのある方など、市民のみなさんが自分らしい生活をおくるためのまちづくりについて、ご意見やご要望、アイデアなどがありましたら、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

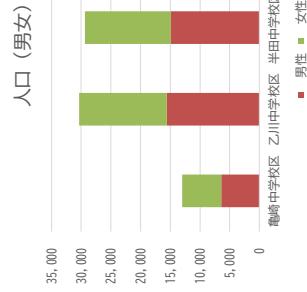
分析概要

- 目的
 - ・本市の地域福祉の推進基盤は第2層（中学校区）であり、第2層の実態を把握することが必要である。
 - ・第2層の住民に係る基本属性を把握することで、各中学校区の特徴を把握する。
- 方法
 - ①住民基本台帳や障がい者手帳、介護認定情報等システムにより情報を抽出する（令和6年10月1日時点）。
 - ②中学校区ごとの情報に加工する。
 - ③中学校区内での年齢分布等、構成比を比較する。

※本資料は、住民基本台帳により作成しているため、実態と合わない可能性性があります。

人口（男女）

項目	市全体		亀崎中学校区	乙川中学校区	半田中学校区	成岩中学校区	青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
全体	116,365	100.0%	12,980	11.2%	30,329	26.1%	29,357	25.2%
男性	58,669	50.4%	6,418	49.4%	15,572	51.3%	14,933	50.9%
女性	57,696	49.6%	6,562	50.6%	14,757	48.7%	14,424	49.1%



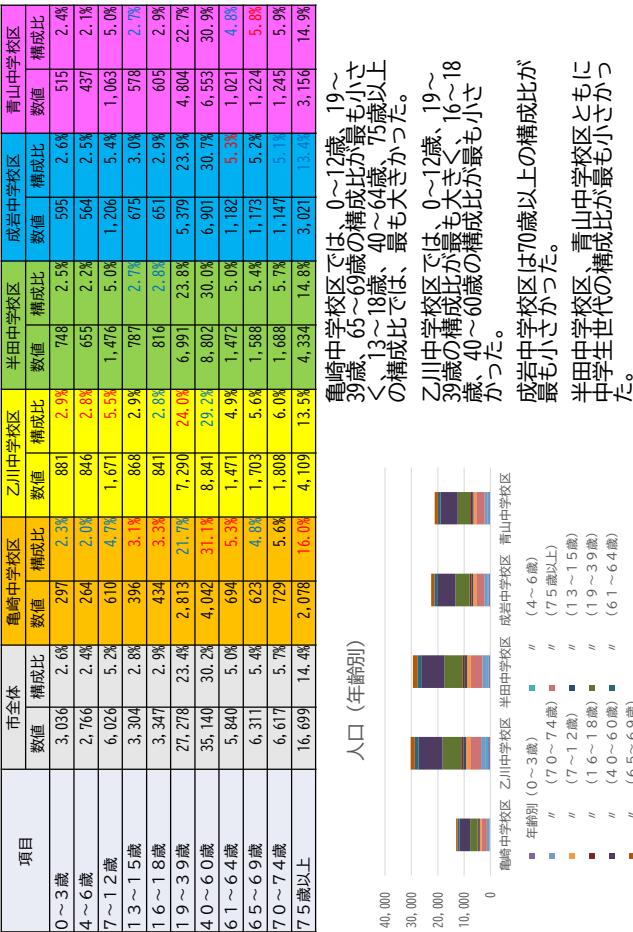
令和6年10月1日時点の人口は116,365人であり、男性が58,669人（50.4%）、女性が57,696人（49.6%）であった。中学校区ごとの比較では、乙川中学校区が30,329人（26.1%）で最も多く、亀崎中学校区が12,980人（11.2%）で最も少なかった。また、乙川中学校区を除く4中学校区で男女比はほぼ同等であった。

中学校区別 人口等分析

令和7年3月
半田市地域福祉課

項目別分析

人口（年齢別）

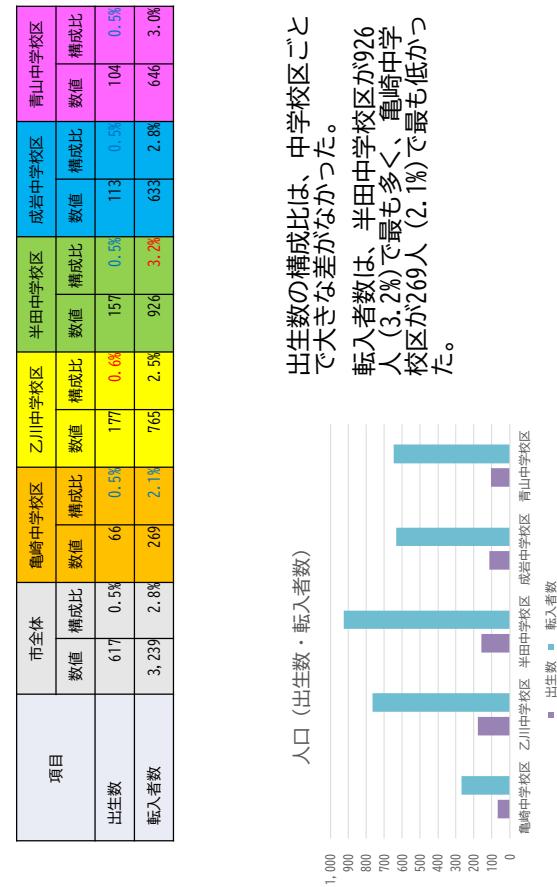


人口（外國籍市民）



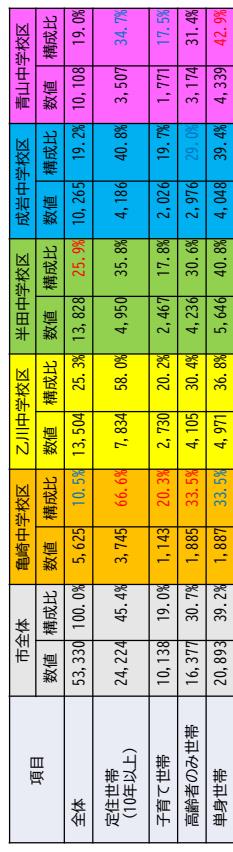
中学校区別の人口に対する外国籍市民の構成比では、乙川中学校区が1,975人(6.5%)と最も多く(2.2%)で最も少なかった。

人口（出生數・転入者數）



中学校区ごとに出生数の構成比は、中学校区ごとで大きな差がなかった。転入者数は、半田中学校区が926人(3.2%)で最も多く、竜崎中学校区が269人(2.1%)で最も低かった。

世帶數



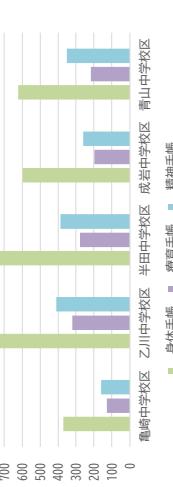
世帯数の構成比は中学校区が13.8%、高等学校区が13.2%、中学校区が13.0%、高等学校区が12.5%で最も多く、中学校区が最も少なかった。世帯数に占める定住世帯の構成比は中学校区が最も多く、中学校区が最も少なかった。世帯数に占める定住世帯の構成比は中学校区が最も多く、中学校区が最も少なかった。世帯数に占める定住世帯の構成比は中学校区が最も多く、中学校区が最も少なかった。

障がい者

項目	市全体	龜崎中学校区	乙川中学校区	半田中学校区	成岩中学校区	青山中学校区
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
身体手帳	3,367	2.9%	370	2.9%	933	3.1%
療育手帳	1,140	1.0%	128	1.0%	320	1.1%
精神手帳	1,565	1.3%	159	1.2%	410	1.4%

障がい者手帳所持者

地区別人口に占める障がい者手帳所持者の構成比は、中学校区ごとに偏りはなかった。

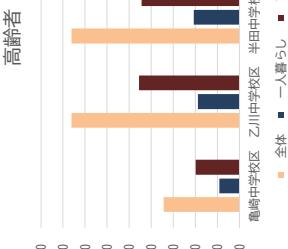


高齢者

項目	市全体		龜崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比										
全般	29,627	25.5%	3,430	26.4%	7,620	25.1%	7,610	25.9%	5,341	23.7%	5,625	26.5%
一人暮らし	8,010	6.9%	916	7.1%	1,886	6.2%	2,065	7.0%	1,520	6.8%	1,623	7.7%
高齢者のみ世帯 人数	17,157	14.7%	1,991	15.3%	4,558	15.0%	4,445	15.1%	2,981	13.3%	3,181	15.0%

高齢者全体の構成比では、青山中学校区が5,625人(26.5%)で最も多く、一人暮らしだけでも1,623人(7.7%)で最も多かった。

高齢者のみ世帯人口数の構成比では、龜崎中学校区が1,991人(15.3%)で最も多かった。
一方、成岩中学校区で、高齢者全体、一人暮らしだけ、高齢者のみ世帯人口数のいずれの構成比も最も低かった。



高齢者全体の構成比では、青山中学校区が5,625人(26.5%)で最も多く、一人暮らしだけでも1,623人(7.7%)で最も多かった。

高齢者のみ世帯人口数の構成比では、龜崎中学校区が1,991人(15.3%)で最も多かった。
一方、成岩中学校区で、高齢者全体、一人暮らしだけ、高齢者のみ世帯人口数のいずれの構成比も最も低かった。

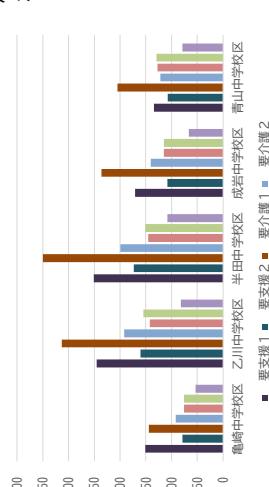
介護認定

項目	市全体	龜崎中学校区	乙川中学校区	半田中学校区	成岩中学校区	青山中学校区
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
要支援1	952	0.8%	151	1.2%	245	0.8%
要支援2	627	0.5%	79	0.6%	160	0.5%
要介護1	1,248	1.1%	144	1.1%	313	1.0%
要介護2	745	0.6%	92	0.7%	192	0.6%
要介護3	605	0.5%	76	0.6%	142	0.5%
要介護4	626	0.5%	76	0.6%	155	0.5%
要介護5	388	0.3%	53	0.4%	82	0.3%

介護認定

地区別人口に占める介護認定者の構成比は、中学校区ごとに偏りはなかった。

地区別分析



亀崎中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で最も人口が少ない。
- 男性よりも女性の方が多い。
- 0～12歳の子どもの構成比は市内で最も低く、その親世代にあたる19～39歳の構成比も市内で最も低い。一方、13～18歳の子どもの構成比は市内で最も高く、その親世代にあたる40～60歳の構成比も市内で最も高い。
- 61～64歳の構成比は市内で最も高い。
- 65～69歳の前期高齢者の構成比は市内で最も低いが、75歳以上の後期高齢者の構成比は市内で最も高い。
- 外国籍市民の構成比は市全体の平均よりも低い。
- 出生数、転入者数の構成比は市内で最も低い。

亀崎中学校区 【考察①】

- 0～12歳の子どもの構成比が低いのは、その親世代にあたる19～39歳の構成比が低いことによる。この世代の構成比が低いのは、定住世帯が多く、外部からの流入が少ない（またはできる土地・不動産がない）ことが考えられる。
- 13～18歳の構成比が高く、その親世代にあたる40～64歳の構成比も高い。これにより、子育て世帯の構成比も高い水準であるが、第3次地福計画が終了する5年後には、この世代の子どもは成人するため、子育て世帯の構成比は上記の0～12歳の子どもに紐づくため、市内で最も低くなる見込み。
- 高齢者のみ世帯の構成比が市内で最も多いことから、2040年を見据えると、今後、空き家が大幅に増加する可能性が高い。

亀崎中学校区 【結果②】

- 世帯数は市内で最も少ない。
- 世帯数に占める定住世帯、子育て世帯、高齢者のみ世帯の構成比は市内で最も多い。
- 世帯数に占める単身世帯の構成比は市内で最も少ないが、一人暮らし高齢者の構成比は、市の平均よりも高い。
- 要支援1の認定がある人の構成比が市内で最も高い。
- 乙川中学校区とほぼ真逆の人口構成比。

乙川中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中でも人口が多い。
- 男女の構成比では男性が多く、市内で最も男女の人数差が大きい。
- 0～12歳の子どもの構成比、出生数が市内で最も高く、その親世代にあたる19～39歳の構成比も市内で最も高い。
- 16～18歳の構成比が市内で最も低く、その親世代にあたる40～60歳の構成比も市内で最も低い。
- 70～74歳の構成比が市内で最も高いが、75歳以上の構成比は市の平均以下である。
- 外国籍市民の構成比が市内で最も高いが、転入者数は市の平均以下である。

- 定住世帯、子育て世帯は市の平均よりも高い。
- 単身世帯が市の平均よりも低い。
- 高齢者の構成比が市の平均よりも低い。
- 電崎中学校区とほほ真逆の人口構成比。**

乙川中学校区 【結果②】

- 0～12歳の子どもの構成比や出生数の構成比が最も高く、その親世代の構成比も高いことから、市内でも子どもの多い地域であることが多いことから、一方、70～74歳の構成比も最も高いことから、今後、後期高齢者の構成比が増えていき、幅広い世代に対応した施策が必要であると考えられる。
- また、外国籍市民のうち、約4割が乙川中学校区にいることから、外国籍市民との共生をどのように進めるかを考える必要がある。

乙川中学校区 【考察①】

- 外国籍市民が最も多いが、転入者数の構成比が市の平均よりも低いことから、毎年度外国籍市民が盛んに転入しているわけではなく、一定年数居住している人が多いと考えられる。

- 5中学校区の中で2番目に人口が多く、世帯数は最も多い。
- 人口構成は5中学校区の中で**最も市の平均に近い**が、13～18歳の構成比が市内で最も低い。
- 出生数の構成比が市内で最も低い。
- 転入者数の構成比が市内で最も高く、定住世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 子育て世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 単身世帯の構成比が市の平均よりも高い**が、一人暮らし高齢者の構成比は市の平均程度。

半田中学校区 【結果①】

- 出生数の構成比は最も低いが、転入者数の構成比が最も高く、出生数よりも転入者の方が多いが、転入者による人口の誕生で誕生ではなく、転入者をいかに地域コミュニティへの参加につなげられるかが課題。
- 世帯数が最も多く、単身世帯数も市内で最も多いが、高齢者の一人暮らしの構成比は市内の平均程度である。また、13～18歳の世帯構成比が市内で最も低いことから、就労世代においても単身世帯が多いと考えられる。今後、この単身世帯が定住すると、一人暮らし高齢者が増加する可能性が高い。

半田中学校区 【考察①】

成岩中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で3番目に人口が多い。
- 男女比がほぼ同程度である。
- 61～64歳の構成比が市内で最も高い。
- 70歳以上の構成比が市内で最も低い。
- 出生数の構成比が市内で最も低い。
- 定住世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 高齢者のみ世帯の構成比が最も低い。
- 単身世帯の構成比が市の平均程度。
- 人口に占める高齢者、一人暮らしが、**高齢化率が市内で最も低い**。

成岩中学校区 【考察①】

- 市内で最も高齢化率の低い中学校区であり、一人暮らしが高齢者、高齢者のみ世帯の構成比も低いことから、2世代、3世代で居住している人が市で相対的に多いと考えられる。それぞれの世代が家族と一緒に時間以外の居場所（家族教室、サロン等）が必要と考えられる。
- 高齢者の構成比が市内で最も低く、定住世帯が市の平均よりも低くなっている。転入者数が市の平均程度であるところから、昔から居住していた高齢者が亡くなり、その次世代が現在の高齢者になつている可能性が考えられる。

青山中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で4番目に人口が多い。
- 男女の構成比が女性の方が多く、男性の方が少ない。
- 子どもの構成比が市の平均よりも低く、中でも13～15歳の構成比が市内で最も低い。
- 61～64歳の構成比が市内で最も低い。
- 65～69歳の構成比が市内で最も高く、70歳以上の構成比が市の平均よりも高い。
- 外国籍市民の構成比が市内で最も高い。
- 出生数の構成比が市内で最も低い**。
- 転入者数の構成比が市の平均よりも高い。
- 定住世帯の構成比が市内で最も高い。
- 最も高齢化率が高く**、一人暮らしが高齢者の構成比も高い。

青山中学校区 【考察①】

- 市の平均よりも少子高齢化が進んでおり、子育て世帯の構成比が市内で最も低く、高齢化率が市内で最も高い。持続可能なまちとするため、子どもが地域に住み続けたいと思えるような地域愛の醸成と、高齢者同士が互いに支えあえる仕組みが必要。
- 特殊な福祉施設があることが一要因であるが、単身世帯の構成比が市内で最も多く、定住世帯の構成率が市内でも最も低い。また、一人暮らしが孤立状態に陥らぬよう地域づくりについて検討する必要がある。

権利擁護・居住支援部会報告書

(1) テーマ概要

半田市に限らず、近年では多死社会、単身独居世帯の増加、家族の基盤の弱体化、人間関係の希薄化が進んでいることにより、経済的理由だけでなく身元保証がないために住む場所を確保することが困難になってきています。また、世帯構成の多様化により、母子世帯、外国人世帯、障がい者世帯、高齢者世帯、LGBTQ、家族関係を望まない人等が生きにくさを感じる現状もあります。そのような状況の中、より住みやすく、ともに安心して暮らし続けるためにはどのような仕組みや制度が必要なのかを本部会では話し合います。

住民が尊厳を守りながら誰もが自分らしく暮らすために、普段からの見守り、専門職へのつながり、地域住民によってささえあえる環境づくりを目指します。

(2) テーマ課題・対策・取組

- ・多死社会における身寄り・居住・死後対応の仕組み
- ・意思決定を重視した「新たな権利擁護」の在り方

○新たな身元保証の仕組み：

<現状>死亡後の費用：火葬だけでも最低 20 万円は必要です。

<課題>費用を捻出できない入居者への対応が必要です。

<対策>①保険を活用して補償していきます（死後対応）

②補償金は、居住支援法人によって、死後対応として
火葬、病院の清算、賃借・公共料金などの支払い・
解約、遺品整理の代行費用に充てられます。家賃債務
保証や残置物処分は、保険によりできるようにします。



○死後対応と互助事業の啓発：

<現状>初期費用数十万円で死後対応をできるようにする仕組みがあります。

<課題>初期費用を支払えない人の死後対応や、死後対応を依頼できる人に繋がるようにする必要があります。

<対策>①保険を活用：初期費用はなく、保険金等で分割して支払える仕組みを活用します。

②家族代行できる仕組み：くらし安心サポート事業（知多地域権利擁護支援センター）などで互助会・ろうスクールの企画・運営・普及・啓発します。

③国の大規模な金銭管理制度を注視するとともに、上記以外の死後対応の仕組みを構築するために検討する機会を作ります。

○見守りおよびサポート体制：

<現状>住宅確保要配慮者（単身高齢者、ひとり親、障がい者、低額所得者など）の場合、認知症や病気、けがのケア、近隣トラブルや家賃滞納等、大家の心配事・不安があります。

<課題>保険だけでなく各種制度の活用や地域による見守りが必要です。

<対策>①ICTを活用：非常時の対応が可能になる、テラシテR(中部電力)などがあります。

②2年の定期借家契約を活用：入居者の状況把握が可能になり、次の住まいを探す際の借家人の状況に合わせた入居プランの紹介・提供を目指します。

③居住支援法人とともに住まいのサポート体制を構築：宅建協会や弁護士など各士業とも連携します。また、大家等の理解を深める取組を行います。

④地域の中でのつながりの再構築：ささえあいのまちづくりのために、高齢者だけでなく子どもも含めた居場所を確保し普及・啓発します。

⑤既存の見守り・助け合いサービスを有効活用し、広報・周知を行います。

○ライフエンディングサポート事業の啓発：

<課題>終活について事前に考える機会の創出が必要です。

<対策>①自分の財産や遺品になるもの、介護・医療、葬儀やお墓について、記録したエンディングノート・もしもシート・事前指示書などを参考に、半田市独自のものを検討します。

②終活に向けた研修や各種ツールの普及・啓発を行います。

実施主体	第1層（市全域）	第2層 (中学校区)	第3層 (小学校区以下)
住民	<ul style="list-style-type: none">・互助会による生活（ちょっとした）支援、話し合える関係づくり・（入院時・入所時の）今まで家族が担ってきた保証人などの家族代行	<ul style="list-style-type: none">・身元保証会社・権利擁護支援センターによる保険での対応・ICTの活用	<ul style="list-style-type: none">・高齢者だけでなく子どもも含めた居場所・話し合える場所・エンディングノート・もしもシート・事前指示書の作成
事業所	<ul style="list-style-type: none">・身元保証会社・権利擁護支援センターによる保険での対応・ICTの活用		
社協	<ul style="list-style-type: none">・住む場所：近隣トラブル・家賃滞納などの大家の不安解消方法の見える化		<ul style="list-style-type: none">・ちょっとした支援の可能性（ささえあいやボランティアの地域通貨、ポイント制）
行政 (関係課)			<ul style="list-style-type: none">・死生観についてタブー視せずに、万が一の時のために考えておく・備える・啓発

就労・参加支援部会報告書

(1) テーマ概要

少子高齢化や労働者人口の減少が進み、地域経済・地域コミュニティ双方において「担い手不足」が顕在化しています。福祉現場でも新卒・若手社員の定着率低下や資格要件の高さから育成・採用が難しくなっており、安定的な福祉サービス提供が危ぶまれています。また、高齢者や障がい者、生活困窮者、若年無業者など、支援が必要な方々の「働きたい」「役割を持ちたい」という意欲に応える体制づくりが求められており、単なる就労支援にとどまらず、多様な社会参加のあり方が必要となっています。地域とのつながりの希薄化や居場所の喪失が、孤独・孤立や健康悪化、フレイル等の要因となるため、社会参加が重要です。



(2) テーマ課題

課題1：福祉現場における就労

福祉人材の確保・育成が十分に出来ておらず、福祉事業所の人材が不足、安定的な福祉サービスの提供ができなくなる恐れがあります。

課題2：課題を抱えた方を含めた一般就労へのつなぎ

小・中学校の不登校者数が増加しており、高校に進学しても学校生活がうまくいかずには退学となる方や、どこにも所属することなく中学校を卒業する、「中卒無業者」が増加しています。また、ひきこもり状態にある若者や、働く意欲があっても本人の生活歴（累犯など）等によって社会的な障壁が高く、就職の機会そのものが少なく職場の定着も課題となっています。

課題3：地域人材の確保・育成（地域の担い手不足）

定年延長等によって、地域で活動する担い手が高齢化しており、各地域で「担い手不足」が課題となっています。その結果、既存のボランティアや市民活動団体の世代交代が進まず、地域でのささえあい活動が維持できなくなる恐れがあります。

課題4：情報、交流の不足

企業と福祉事業所間の横のつながりが弱く、市民や学生が地元の仕事や活動に触れる機会が少ない状況です。また、双方の課題やニーズを話し合う機会がなく、それぞれのできることやニーズを補う活動を推進することが難しい現状にあります。

(3) 対策・取組

- 趣味や地域活動、短時間勤務など多様な社会参加の機会を提供します。
- 就労困難層への継続的な伴走支援体制の強化と企業との連携により、就労に結びつきやすい環境づくりを行います。
- 地域活動と就労支援の「中間的領域」として、ユニバーサル就労により就労準備期から定着までをサポートします。

実施主体	第1層（市全域）	第2層 (中学校区)	第3層 (小学校区以下)
住民 (学生)			<ul style="list-style-type: none"> ・他者のための活動が「自分のため」と感じられる人が多くいる状態（課題3）
事業所 (企業)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職後も継続的に働き続けられる環境づくり（課題1・2） ・企業との連携により仕事を細分化して、年代を問わずに働く（賃金をもらえる） ・機会の創出「ダイバーシティ就労プラットフォームづくり」（課題2・4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所等が地域貢献活動の一環で、地域のニーズにあつた活動ができる仕組み（課題3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人間の同世代の職員の交流や情報交換の機会（課題1） ・実習やインターンシップを受け入れている事業所間の情報交換及び大学との連携（課題1）
社協		<ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズを聞き取りつつ、事業所間で引継ぎができる仕組み（課題1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みだけなく、恒常的なボランティア活動への参加の機会創出（課題1・3）
行政 (関係課)	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意欲がない人や就労以前に治療や支援が必要な人への医療との連携（課題2） ・地域と福祉と企業の情報交換の場があり、それぞれの「できること」を掛け合わせて事業化する仕組み（課題4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業同士が集まって、ノウハウを培う場の創出（課題2） 	

災害にも強い地域づくり部会報告書

(1) テーマ概要

半田市をより住みやすく、安心して暮らし続けられるようになるためには、住民同士の支え合いが重要です。災害や予期せぬ事故が発生したとき、地域の人々が互いに助け合うことで迅速な対応が可能になります。また、地域の住民同士が顔見知りになることで、不審者の侵入を防ぎ、防犯意識が高まることも期待できます。お祭りやイベント、地域清掃や防災訓練などの活動を通じて交流が生まれ、活気ある地域づくりにもつながります。ちょっとした困りごとでも、近所の人に助けてもらえる環境があれば、安心して暮らせるのではないでしょうか。



まち歩きをしながら多世代交流

(2-1) テーマ課題【地域活動への参加の仕組み】

各世代で活動参加ができている事例・参加しない(できない)理由などが違う要因となっています。興味があり参加をしたいと思っている人も多いので、きっかけになる情報をどのように各世代に伝えることができるか、また各活動をどのように継続させていくのかが課題です。

(3-1) 対策・取組【地域活動への参加の仕組み】

実施主体	第1層（市全域）	第2層 (中学校区)	第3層 (小学校区以下)
住民		<ul style="list-style-type: none">・多世代で楽しみながらできる交流の場を企画	<ul style="list-style-type: none">・参加見込みがありそうな人への個別アプローチ・人財育成、活動の継続を理念に追加・LINE等情報共有ツール・QRコード等の使い方を習得・ふくしに関するネットワーク会議等の開催
事業所	<ul style="list-style-type: none">・LINE等情報共有ツール、QRコードなどの使い方講習会の開催	<ul style="list-style-type: none">・事業所連絡会等への参画	<ul style="list-style-type: none">・地域団体との交流
社協	<ul style="list-style-type: none">・活動団体の把握・課題の抽出	<ul style="list-style-type: none">・活動団体への相談機能的役割	<ul style="list-style-type: none">・地域住民とのコネクト的役割
行政 (関係課)	<ul style="list-style-type: none">・各団体の連絡会・交流会等の開催・既存団体から派生する団体立上げ支援・tetoruが地域活動に有効活用でき、情報が悪用されないような仕組みづくり		

(2-2) テーマ課題【災害・緊急時にささえあう仕組み】

地域防災においては、防災訓練の内容や実施頻度は地区ごとになっており、安否確認のみの訓練が多く、避難所での実践的な訓練が行われている地区は多くありません。特に自主防災会の活動や地域住民の参加状況には差があり、自治区に未加入の住民には情報が届かず、訓練参加率の低下も課題になっています。一方、避難所の開設情報や備蓄内容が市民に十分周知されていないことで、被災後の生活再建への不安も大きいことも挙げられます。避難行動要支援者名簿については、発災直後の支援体制として近所の町内会や隣組の助け合いの活動が不可欠ですが、形式的なリストにとどまっており実効性のある計画までには至っていません。特に障がい福祉サービスを利用してない障がい者や高齢者への支援計画が不十分で、災害時に誰がどのように支援するかが不明確な点が課題となっています。このような現状と課題から「災害・緊急時にささえあう仕組み」が必要であることを部会で検討しました。



(3-2) 対策・取組【災害・緊急時にささえあう仕組み】

実施主体	第1層（市全域）	第2層 (中学校区)	第3層 (小学校区以下)
住民	・様々なサークル活動で災害についての勉強会やイベントを実施し、防災意識を高める（グループ）		・地域の防災訓練への積極的に参加し近所の顔の見える関係の機会を増やす（個人） ・マイタイムラインを作成し、家族と共有（家族）
事業所	・各事業所のBCP（業務継続計画）を地域と共有して、発災時の連携に活かす		・地域の防災訓練に事業所の利用者と一緒に参加し顔の見える連携体制を構築
社協	・災害時ボランティアセンター開設訓練を実施 ・市民へ災害ボランティアセンターを周知し、住民や事業所と共に準備	・中学校のふくし共育で防災減災の内容を実施	・小学校のふくし共育で防災減災の内容を実施
行政 (関係課)	・避難所の開設手順・備蓄状況を平時に住民と共有し、「自助」の準備を行えるよう支援 ・指定福祉避難所についても開設・運営手順を検討し住民と共有 ・福祉サービス未利用者・高齢者にも災害時支援プランを作成	・中学校でマイタイムラインの作成を授業に組み込む	・小学校でマイタイムラインの作成を授業に組み込む ・隣近所の助け合いには日ごろからの顔の見える関係が必要であることを周知し、自治区に入るメリットを住民へ伝えていく ・地域ごとに「要支援者支援会議」等の場を設け、名簿の内容により支援方法を具体的に検討、共助の意識を高めて実効性のある計画を準備

「いつのまにやら地域づくり」から学ぶ 第3次半田市地域福祉計画への示唆

- ◆日時：令和7年5月23日（金） 13:30～15:30
- ◆場所：瀧上工業雁宿ホール 講堂（半田市雁宿町1-22-1）
- ◆講師：滋賀県甲賀市 地域共生社会推進課 課長 竜王 真紀 氏
滋賀県甲賀市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 大谷 喜久 氏
- ◆参加人数：123名

1. はじめに

滋賀県甲賀市の地域共生社会実現に向けた実践「いつのまにやら地域づくり」に関する研修を受けて、第3次半田市地域福祉計画策定の参考とすることを目的にまとめたものである。

2. 研修の概要と学びの要点

（1）「いつのまにやら地域づくり」とは

- ◆意図的・計画的な取り組みというより、「気づけば地域づくりになっていた」という感覚を大切にしている。
- ◆地域生活課題（ひきこもり、ヤングケアラー、身寄り問題など）に向き合う中で、「第四の縁」（地縁・血縁・社縁に次ぐ、興味や思いから生まれるつながり）に着目した。

（2）主な実践とその特徴

- ◆重層的支援体制整備事業を背景に、部門連携や包括的支援が進行中。
- ◆属人的だが柔軟な「変態コーディネーター」の存在が重要。
- ◆「分かち合い（強さだけでなく弱さも）」をキーワードに、多様な人々がゆるくつながりささえあう地域を目指す。
- ◆地域に既にある「興味・関心」を接点に活動が自然発生している。

（3）印象的な取組事例

- ◆「みんなでe-こうか」：多職種連携のイノベーションサロン、緩やかな対話の場の形成。
- ◆「年の暮れの夕暮れに」：生活困窮者支援と居場所づくりが一体化した炊き出しイベントを企画し、それぞれが出来ることを持ち寄って実施していく。
- ◆「まちのつながり図鑑（コーポ・ミルフィーユ物語）」：地域共生の理解を物語化し、職員や住民の意識醸成に活用。

3. 半田市地域福祉計画策定への示唆

(1) 「第四の縁」を活かすアプローチ

- ◆制度の隙間に落ちる人々（8050問題、若年ひきこもり等）には、地縁に依らないつながりが有効。
- ◆市民の「やってみたい」を出発点にし、小さな活動が自然につながるような土壤づくりを意識する。

(2) 支援体制の横断化

- ◆「府内連携ができない中で、住民と協働は難しい」という甲賀市の課題は半田市も共有。
- ◆部署間の縦割りを乗り越えるための定例的な情報共有、対話の場が必要。
- ◆分野を超えたコーディネーター的な人材の育成・発掘が急務。

(3) 居場所・役割・楽しさのある地域づくり

- ◆支援と活動を「おもしろがる」視点が重要。
- ◆制度に沿った活動でなくても、市民が楽しさや共感で参加できる柔らかな事業設計が求められる。

4. 今後の展開に向けて

(1) 小規模な試行と「偶然性」の重視

- ◆完璧な計画からではなく、「やってみよう」から生まれる活動を埋没させない（出来ない理由探しをしない）。
- ◆職員や地域住民によるお試し型の協働活動を行い、検証する。

(2) 計画策定過程そのものを“地域づくり”に

- ◆策定に関わる人を“関係者”から“活動者”へ。計画策定過程を通じて、当事者意識を醸成。
- ◆地域福祉計画においても、「共に育つ」「共に悩む」というスタンスを明文化。

(3) 情報発信と市民参加

- ◆計画自体の伝え方（たとえば物語仕立てやイラスト活用）を工夫する。
- ◆共感される広報を通じて、市民の“誰かとつながりたい”を後押しする。

5. おわりに

複雑化・複合化する生活課題を「縁」によって解決を図る甲賀市の取り組みを学んだ。縁による「居場所づくり」や「課題解決を目指すプラットフォーム」など、形は柔軟で、正解・不正解を検討するよりも「まずやってみる」ことを重要視している。

これまで、当たり前に形成されてきた地縁・血縁・社縁が、地域性・家族機能・愛社精神が希薄化するなかで、興味関心による「第四の縁」により新たな結びつきを構築する流れは、これからの中社会に馴染みやすいと感じられた。

半田市においても、制度や政策だけではなく、“日常の中のつながり（縁）”を育むことが地域福祉計画の核であるべきであり、本研修の学びを活かして、新しい地域づくりの方向性を共に描いていきたい。



「支援者のための孤立する若者への支援セミナー」から学ぶ 第3次半田市地域福祉計画への示唆

- ◆日時：令和7年7月15日（火） 14:00～16:00
- ◆場所：瀧上工業雁宿ホール 視聴覚室（半田市雁宿町1-22-1）
- ◆講師：千葉県市川市 市川市よりそい支援事業がじゅまる+
市川市生活サポートセンターそら 総合センター長 朝比奈 ミカ 氏
- ◆参加人数：57名

1. はじめに

半田市における重層的支援体制整備事業の推進にあたり、制度の狭間とされる「中卒無業者」や「ヤングケアラー」などの生活課題を抱える若者の相談が増加している。

若者の相談支援にあたる関係機関やその支援者が「若者福祉」に関する見識を深めるとともに、第3次地域福祉計画策定の参考とすることを目的にまとめたものである。

2. 研修の概要と学びの要点

（1）若者の孤立の実態と背景

- ◆若者：こどもたち、若者の世界にどうやったら近づけるのか。
「死にたい」は挨拶代わり。「ありがとうございます」は「もう関わらないで」
- ◆支援者：大人として、支援者として自分が持っている「偏見」や「力」について、どれだけ自覚的であることができるか。
- ◆虐待、精神的・経済的困難、発達障がい、家族内役割の過重（ヤングケアラー）など、若者が孤立する背景は多様で複合的である。
- ◆家族を前提とした社会保障制度の限界が露呈しており、「私的領域に公的支援が必要な時代に入った」という認識が必要。

（2）支援者の葛藤と現場の気づき

- ◆支援の現場では「深刻な内容を笑顔で語る若者」に戸惑う事例や、教員・行政職員・支援者の言葉が逆効果になるケースもある。
- ◆大切なのは「正解を急がず、寄り添い、立ち会う姿勢」であり、トラブル・インフォームド・ケアの視点が有効である。

（3）印象的な取り組み事例

- ◆校内カフェ「りりいふカフェ」や、食の支援を通じた居場所づくり
「お むすびプロジェクト」などは、支援のハードルを下げ、信頼関係を育む効果が見られた。
- ◆生徒・若者が「安心して自分を出せる場」が、結果的に支援につながることがある。

3. 半田市地域福祉計画策定への示唆

（1）「第3の居場所」の整備と運営体制

- ◆若者がふらっと立ち寄れる「第3の居場所」が必要であり、夜間や休日の対応も含めた多様な場づくりを検討する。

（2）支援者のネットワークと地域の理解醸成

- ◆「支援の前の支援（対話、観察、関心）」を担う関係性の構築を意識し、顔の見えるネットワークづくりを推進する。

（3）支援と共生のまちづくりの両立

- ◆支援対象者を特別視するのではなく、誰もが孤立しうる前提で共に過ごせる地域づくり。

4. 今後の展開に向けて

（1）制度や支援対象を限定しない、柔軟で開かれた居場所の整備

- ◆子ども自身が利用できる社会資源の必要性から、夜間や長期休みに通える、学校でも家庭でもない第3の居場所としての「合法的な家出の場」としての居場所の創出。
- ◆ヤングケアラー問題は社会的な支援が不足している子どもたちが置かれた現状を象徴している。ケアの問題だけを切り取るのではなく、社会構造全体として捉える。

（2）若者の声を施策に反映する継続的な仕組みづくり

- ◆相談して「良かった経験」を持たなければ、相談しようとは思わない（相談しようと思いつくこともないかもしれない。）
- ◆若者の声を聞き取り、反映する仕組みの検討が必要。SNSなど若者に届く手法も活用。

(3) 多職種連携の実践を通じた、地域全体の支援力向上

- ◆支援期間は長くなる。福祉的支援だけで抱え続けるのではなく、おしゃべりや愚痴をこぼせる関係性、「別に何もしないよ」とただ寄り添う大人の存在が大切
- ◆支援対象者と対等な立場で、質の高い「おせっかい」が求められている

5. おわりに

本研修で示されたのは、制度の外で苦しむ若者たちの現実であり、支援の在り方そのものを問い合わせ直す契機であった。支援のあり方を問い合わせ直すとともに、半田市として“誰もが孤立しないまち”をどのように構想・実践するかが今後の鍵となる。



◆ 半田市地域福祉計画策定委員会 委員名簿（敬称略） ◆

氏 名	所 属	備 考
○原 田 正 樹	日本福祉大学	学識経験者
石 井 義 廣	半田市区長連絡協議会	地域住民
関 鋼太郎	半田市民生委員児童委員協議会	地域住民
中 村 力 章	半田市 P T A 連絡協議会	教育
今 井 友 乃	知多地域権利擁護支援センター	権利擁護
鵜 飼 数 正 (前任: 井戸 千尋)	ちた地域若者サポートステーション	若者支援
山 崎 千 佳	半田保健所	保健・医療
森 川 武 彦	半田市介護保険運営協議会	高齢者支援
立 石 佳 輝	半田市障がい者自立支援協議会	障がい者支援
天 野 真 弓	半田市子ども・子育て会議	子ども・子育て
柳 野 敬 子	半田市健康づくり連絡協議会	健康づくり
柴 田 将 人	半田市ふくしまるごと会議	社会福祉
山 田 伸 吾	半田市居住支援協議会	住まい
田 窪 英 樹	地域福祉実践者	生活困窮
榎 原 かおる	地域福祉実践者	ボランティア

○は委員長

(市・社協)

氏名	所属	備考
森下貴仁 (前任:長谷川信和)	福祉部生活援護課長	市(関係課)
木村智恵子 (前任:沢田義行)	福祉部高齢介護課長	
竹内健	福祉部健康課長	
森本総一郎 (前任:小林徹)	子ども未来部子ども育成課長	
三輪象太郎	子ども未来部子育て相談課長	
高橋直登	教育部学校教育課指導主事	
小野田靖	半田市社会福祉協議会事務局長	社会福祉協議会
加藤恵 (前任:前山憲一)	半田市社会福祉協議会事務局次長	
小林徹 (前任:竹部益世)	福祉部長	市(事務局)
山本勇夫	福祉部地域福祉課長	
赤坂英寿 (前任:村上裕子)	福祉部地域福祉課	
川口一美	福祉部地域福祉課	
加藤裕加	福祉部地域福祉課	
黒野隼	福祉部地域福祉課	

◆ 半田市地域福祉計画策定調整会議 委員名簿（敬称略） ◆

氏 名	所 属	備 考
山 田 伸 吾	権利擁護・居住支援部会部会長	
立 石 佳 輝	就労・参加支援部会部会長	(R7 年度 から)
森 川 武 彦	災害にも強い地域づくり部会部会長	
森 幸	企画部市民協働課	
村 上 裕 子 (前任：富田 隆志)	福祉部地域福祉課	
鳥 居 ひとみ (前任：邑上 祥二郎)	福祉部生活援護課	
石 島 陽 子	福祉部高齢介護課	
榎 原 晶 子	福祉部健康課	
瀧 田 裕 樹 (前任：森本 総一郎)	子ども未来部子ども育成課	
櫻 井 亮 典	子ども未来部子育て相談課	
加 藤 恵	半田市社会福祉協議会事務局次長	
榎 原 智 康	半田市社会福祉協議会総務グループ	
岡 本 弘 安	半田市社会福祉協議会権利擁護グループ	
徳 山 勝	半田市社会福祉協議会障がい者相談支援センター	
山 田 大 輔	半田市社会福祉協議会包括支援センター	
中 根 靖 幸	半田市社会福祉協議会	
山 本 勇 夫	福祉部地域福祉課長	
赤 坂 英 寿 (前任：村上 裕子)	福祉部地域福祉課	
川 口 一 美	福祉部地域福祉課	事務局
加 藤 裕 加	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	

◆ 半田市地域福祉計画策定専門部会 委員名簿（敬称略） ◆

◆◆ 権利擁護・居住支援部会 ◆◆

氏 名	所 属	備 考
山 田 伸 吾	サンユーホーム株式会社	部会長
柴 田 将 人	弁護士法人リブレ	副部会長
濱 地 洋 樹	公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会	
有 元 吉 野	一般社団法人J AWS	
鷺 野 林 平	社会福祉法人半田同胞園	
部 田 かね代	NPO法人ひだまり	
金 森 大 席	NPO法人知多地域権利擁護支援センター	
上 口 美智代	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
杉 浦 友 紀	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
瀬 口 美 江	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
岩 本 秀 雄	福祉部高齢介護課	
鈴 木 徹	建設部建築課	
加 藤 恵	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
岡 本 弘 安	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
鳥 居 ひとみ	福祉部生活援護課	事務局
梶 田 修 平	福祉部生活援護課	
加 藤 裕 加	福祉部地域福祉課	

◆◆ 就労・参加支援部会 ◆◆

氏名	所属	備考
立石佳輝	社会福祉法人ダブルエッヂエー	部会長
田窪英樹	一般社団法人あいち福祉振興会	副部会長
鵜飼数正	NPO法人ICDS ちた地域若者サポートステーション	
吉川真由美	日本福祉大学	
中村稔晴	半田商工会議所	
岩橋平武	半田市シルバー人材センター	
藤條充	半田保護区保護司会	
安藤須美江	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
佐藤章貴	市民経済部産業課	
村上裕子	福祉部地域福祉課	
梶田修平	福祉部生活援護課	
櫻井亮典	子ども未来部子育て相談課	
榎原智康	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	事務局
中根靖幸	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
赤坂英寿	福祉部地域福祉課	
黒野隼	福祉部地域福祉課	

◆◆ 災害にも強い地域づくり部会 ◆◆

氏 名	所 属	備 考
森 川 武 彦	社会福祉法人椎の木福祉会	部会長
榎 原 かおる	地域福祉実践者	副部会長
岩 浪 房 子	地域福祉実践者	
杉 文 雄	半田市民生委員・児童委員協議会	
小牟礼 広 至	自主防災会	
中 村 力 章	半田市P T A連絡協議会	
辻 桜 香	日本福祉大学学生	
伊 藤 俊	総務部防災安全課	
石 島 陽 子	福祉部高齢介護課	
榎 原 晶 子	福祉部健康課	
瀧 田 裕 樹	子ども未来部子ども育成課	
高 橋 直 登	教育部学校教育課	
松 本 涼 子	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	事務局
徳 山 勝	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
山 田 大 輔	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
川 口 一 美	福祉部地域福祉課	

第3次半田市地域福祉計画

2026年（令和8年）3月

発 行：半田市

編 集：福祉部 地域福祉課

愛知県半田市東洋町二丁目1番地

0569-21-3111（代表）

0569-84-0641（地域福祉課直通）